

アジアの企業と文化

担当教員 桑原 浩

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

日本企業と多国籍企業が東南アジア、東アジア諸国でマーケティング活動を行った事例に焦点を当て、特に各地域の文化的背景とマーケティングとの関係を議論しながら、グローバルマーケティング論の基礎的概念の習得を目的とします。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	消費者行動への越境的な視点（1）；「カップヌードル」他を事例として
3	消費者行動への越境的な視点（2）；「カップヌードル」他を事例として
4	国のセグメンテーションとターゲティング（1）；「かっぱえびせん」他を事例として
5	国のセグメンテーションとターゲティング（2）；「かっぱえびせん」他を事例として
6	国内市場のセグメンテーションとターゲティング（1）；「大戸屋」他を事例として
7	国内市場のセグメンテーションとターゲティング（2）；「大戸屋」他を事例として
8	ポジショニング（1）；緑茶飲料他を事例として
9	ポジショニング（2）；緑茶飲料他を事例として
10	ブランディング（1）；「スターバックス」他を事例として
11	ブランディング（2）；「スターバックス」他を事例として
12	市場参入（1）；「大戸屋」他を事例として
13	市場参入（2）；「大戸屋」他を事例として
14	沖縄県における海外企業のマーケティング
15	1-14回授業の補足とまとめ
16	期末テスト

【履修上の注意事項】

マーケティングの入門科目が履修済みの学生を想定して授業が行われます。これまでマーケティング関係の科目を履修していないが本科目を履修したいと望む学生は、必ず初回授業でそのことを教員に連絡し、適当な指示を受けてください。

【評価方法】

- 1) 期末テスト 50%
2) 課題（宿題） 50%

なおテストでは、筆記用具以外のものの利用は認めません。

【テキスト】

資料、講義ノート等をテキストとし、電子ファイルおよびプリントで提供します。

【参考文献】

『グローバル・マーケティング入門』 相原 修・嶋 正・三浦 俊彦 著、2009年発行、日本経済新聞出版社
『日本企業のグローバル・マーケティング』 グローバルマーケティング研究会著、大石芳裕（編集）、2009年発行、白桃書房

eコマース・マーケティング

担当教員 河田 賢一

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

インターネットの普及に伴い、eコマース（電子商取引）が発展してきている。当講義では電子商取引が企業活動や消費者行動に与える影響について学んでいく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	電子商取引とは
3	企業対消費者電子商取引の概要①
4	企業対消費者電子商取引の概要②
5	企業対消費者電子商取引の概要③
6	契約の流れ①
7	契約の流れ②
8	契約の流れ①
9	資金と物の流れ①
10	資金と物の流れ②
11	資金と物の流れ③
12	情報の流れ①
13	情報の流れ②
14	情報の流れ③
15	講義のまとめ
16	期末試験

【履修上の注意事項】

講義開始とともに出席カードを配布します。その時点で教室にいない場合は欠席となります。

講義時間中に限らず、開始前・終了後に教室の机に座った場合には減点となります。トイレに友人と一緒にいく必要はありません。長時間教室に戻ってこない場合には欠席扱いとなります。講義時間中にタバコを吸いに行った場合には、即座に単位『不可』となります。

【評価方法】

期末試験（70%）、出席点ならびに受講態度（30%）

【テキスト】

丸山正博（2011）『電子商取引の進展 ネット通販とeビジネス』八千代出版

【参考文献】

英文簿記・会計

担当教員 清村 英之

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

企業活動・ビジネスに国境がないように、簿記・会計の世界でも徐々に国境がなくなりつつあります。国境がなくなった時、世界標準の貸借対照表や損益計算書は、当然ながら英語で作成されます。

この講義では、「商業簿記Ⅰ」「同Ⅱ」で学んだ簿記一巡の手続を英語で行えるようになることを目標とし、また、国際会計検定BATIC (Bookkeeping and Accounting Test for International Communication) の取得も目指します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Guidance (ガイダンス)
2	Basic Concepts of Bookkeeping and Accounting (簿記・会計の基礎概念)
3	Transactions and Journal Entries (取引と仕訳)
4	Transactions and Journal Entries (取引と仕訳)
5	Journals and Ledgers (仕訳帳と元帳)
6	Journals and Ledgers (仕訳帳と元帳)
7	Trial Balance (試算表)
8	Test① (中間テスト)
9	Adjusting Entries (決算整理仕訳)
10	Worksheet (精算表)
11	Financial Statements (財務諸表)
12	Closing Entries (帳簿の締切り)
13	Internal Control (内部統制)
14	Generally Accepted Accounting Principles (一般に公正妥当と認められた会計原則)
15	Financial Statement Analysis (財務諸表分析)
16	Test② (期末テスト)

【履修上の注意事項】

「商業簿記Ⅰ」(または「簿記原理Ⅰ」4単位分)を履修済みの学生(またはそれと同等の能力を持つ学生)しか登録できません。

【評価方法】

出席20%, テスト80%で評価します。

【テキスト】

使用しません。

【参考文献】

東京商工会議所『新版BATIC Subject 1 公式テキスト』中央経済社。
東京商工会議所『新版BATIC Subject 1 問題集』中央経済社。

オフィス・マネジメント

担当教員 佐久本 朝一

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

事務理論に関する習得とエクセルを使用した事務処理技術の習得

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

会計学 I

担当教員 大城 建夫

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、財務会計分野の基礎的、全般的内容を修得させることを目標とする。財務会計は企業の外部利害関係者への報告を中心とした分野であり、企業の内部管理のための管理会計と対比される会計分野である。このような外部報告会計のための基本原理について、企業会計原則・会計基準を中心に会社法会計、金融商品取引法会計との比較を行い、わかりやすく講義と質疑で進めていく。

【授業の展開計画】

1. ガイダンス
2. 会計学の役割と領域
3. 会計公準論
4. 会計原則論
5. 貸借対照表論
6. 資産会計
7. 流動資産
8. 固定資産その1
9. 固定資産その2
10. 繰延資産
11. 流動負債
12. 固定負債
13. 純資産会計その1
14. 純資産会計その2
15. 貸借対照表論のまとめ
16. 期末テスト

【履修上の注意事項】

会計学 I では、会計理論の講義を中心に行うが、会計学の理論を具体的に理解するためにも簿記は基礎になる。そのため、受講生諸君は、日商簿記 2 級等の資格取得にも目標を持ってもらいたい。会計学 I を受講するには、商業簿記 I、II を履修していることが望ましい。

【評価方法】

成績評価の方法は、出席状況、中間テスト、期末試験などを総合して判断する。

【テキスト】

上江洲・大城編著『財務会計の基礎理論と展開』同文館出版

【参考文献】

広瀬義州『財務会計』中央経済社、伊藤邦雄『ゼミナール現代会計入門』日本経済新聞社、桜井久勝『財務会計講義』中央経済社

会計学Ⅱ

担当教員 多賀 寿史

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

前期開講の会計学原理Ⅰに引き続き、会計学の基本的な考え方、会計実務の根底に流れる理論を学習する。

【授業の展開計画】

会計学Ⅰ（担当者大城建夫先生）で残され課題を扱います。従いまして、会計学Ⅰが終了してから最終決定致します。

【履修上の注意事項】

前期会計学Ⅰを履修した学生のみです。講義には継続的に出席するようにしましょう。

【評価方法】

課題の提出30%、中間試験30% 期末試験40%

【テキスト】

上江洲由正・大城建夫編「財務会計の基礎理論と展開」同文館、2014年

【参考文献】

桜井久勝「財務会計講義（第15版）」中央経済社、2014年

会社法

担当教員 伊達 竜太郎

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

我々が生きる現代社会において、「会社」は人々の生活と密接に関係している。ここで取り扱う「会社」においては、会社内部の株主や取締役などの意思決定の下で、会社内部の権限・利益配分や、会社外部の債権者との取引を行う。本講では、このような会社をめぐる利害関係者を規制する「会社法」を中心に議論を進める。ここでは、法と経済学や国際会社法などの現代的なトピックを交えつつ、諸制度の基本的知識を理解し、実社会に出た後も活用できる法的考察力の獲得を目指す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	会社法総論
2	ベンチャー・ビジネスと法規制
3	会社形態：株式会社・持分会社
4	設立：総論・設立手続など
5	株式（1）総論・株主の権利と義務
6	株式（2）株式の譲渡とその制限
7	新株発行（1）意義・資金調達
8	新株発行（2）是正措置
9	機関（1）総論
10	機関（2）株主総会
11	機関（3）取締役・取締役会・代表取締役
12	機関（4）監査役・監査役会
13	機関（5）会計参与・会計監査人・委員会設置会社
14	企業組織再編：合併・敵対的企業買収など
15	国際会社法：会社従属法・外国会社など
16	期末試験

【履修上の注意事項】

基本的に、通常の授業形態で行い、可能であれば、講義の理解を深めるために、グループ討論会・双方向的な授業形態・ドラマ鑑賞会なども取り入れる。

【評価方法】

期末試験および講義における受講態度により評価する。期末試験の成績が70で、受講態度（出席を含む）が30の割合である。テストは期末試験1回を予定し、選択式6題および論文式2題の問題を予定している。
なお、期末試験では、教科書・レジュメ（講義の配付資料）・六法・その他の参考書など、何でも持込可能。

【テキスト】

- （1）伊藤靖史＝大杉謙一＝田中亘＝松井秀征『会社法〔第2版〕（LEGAL QUEST）』（有斐閣、2011年）
- （2）最新版の六法

【参考文献】

- （1）江頭憲治郎『株式会社法〔第4版〕』（有斐閣、2011年）
- （2）江頭憲治郎＝岩原紳作＝神作裕之＝藤田友敬編『会社法判例百選〔第2版〕』（有斐閣、2011年）

外書講読

担当教員 佐久本 朝一

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

経営学に関する専門の外書を翻訳する技術を習得する。

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

各自に割り当てられた文章を翻訳させて、その内容をチェックする。

【テキスト】

【参考文献】

企業者史

担当教員 岩橋 建治

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

「ひと」としての企業者に注目し、そこから学ぶ。授業ではさまざまな企業者を取りあげる。彼らによる企業者活動（経営戦略、経営管理、人材育成など）は、どのような時代的・社会的環境のもとで行われたのか。それにより彼らはいかにして社会を変えていったのか。さらに、困難におちいった彼らを支え続けてきた経営理念、あるいは夢や信念とは、何だったのか。主に以上の問いかけから学んでいく。

【授業の展開計画】

主に以下の企業者について議論していく。

- ・鈴木敏文（セブン-イレブン・ジャパン）
- ・松下幸之助（松下電器産業、現・パナソニック）
- ・小倉昌男（ヤマト運輸）
- ・カルロス・ゴーン（日産自動車）
- ・稲盛和夫（京セラ・KDDI）
- ・スティーブ・ジョブズ（アップル）
- ・南場智子（DeNA）
- ・安藤百福（日清食品）
- ・本田宗一郎（本田技研工業）
- ・孫正義（ソフトバンク）
- ・山田昭男（未来工業）

【履修上の注意事項】

この講義は受講生の意見や質問から展開していく。そのため常に考えることが必要とされる。

【評価方法】

期末試験（80%）、中間レポート（20%）

【テキスト】

なし。

【参考文献】

適宜紹介する。

基礎演習 I

担当教員 岩橋 建治

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

経営学は、ひと（人材育成）・もの（商品やサービス）・かね（資金の流れ）・情報などの経営資源を、総合的にどう組み合わせれば、組織としてより効果的な働きをもたらすのかを考える学問です。この授業では、ケーススタディを中心に、経営学に関する予備知識を身につけます。その過程で、大学で学ぶための、さらには実社会の現場での実践に役立つ、さまざまな方法を習得します。具体的には、①テキストの輪読を通じて、問題と課題を見いだすためのトレーニングを行います。②討論を通じて、他者と共同して問題解決にあたるプロセスを学びます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	はじめに： 班分けなど
2	ゲーム： ビジネスアイデアの探求
3	グループワーク (1)： ビジネスプランの作成
4	グループワーク (2)： 業界研究
5	分からないことは分けること (1)： 任天堂
6	分からないことは分けること (2)： シマノ
7	分からないことは分けること (3)： トヨタ
8	自分の頭で考えて考えて考え抜くこと： セブン-イレブン・ジャパン
9	客観的に眺め不合理な点を見つけられること (1)： キヤノン
10	客観的に眺め不合理な点を見つけられること (2)： 花王
11	危機をもって企業のチャンスに転化すること： マブチモーター
12	身の丈に合った成長を図り、事業リスクを直視すること： 信越化学
13	世のため、人のためという自発性の企業文化を埋め込んでいること (1)： ヤマト運輸
14	世のため、人のためという自発性の企業文化を埋め込んでいること (2)： ホンダ
15	前期のまとめ
16	

【履修上の注意事項】

積極的な発言を求めます。積極的な発言は、みんなの理解を助けるだけでなく、発言者の表現力も高めます。

【評価方法】

出席、演習への貢献度、および課題の完成度などにより総合的に評価します。なお、自分の班が報告班または討論班のときに正当な理由なく欠席した場合は、大きくペナルティーが付きまます。

【テキスト】

新原浩朗 (2006) 『日本の優秀企業研究 企業経営の原点——6つの条件』日経ビジネス人文庫。

【参考文献】

適宜紹介します。

基礎演習 I

担当教員 宮森 正樹

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

基礎演習 I

担当教員 清村 英之

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

簿記の技能は、会計コースで様々な専門科目を履修するに当たって不可欠です。したがって、この演習では、第一に日商簿記検定試験2級の資格取得を目指します。また、会計学の全容を明らかにし、それぞれの領域を紹介することによって会计学への興味を喚起する、つまり会计学への誘いが第二の目的です。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	会計学の全体像
3	会計学の全体像
4	日商簿記検定試験6月試験に向けての学習
5	日商簿記検定試験6月試験に向けての学習
6	日商簿記検定試験6月試験に向けての学習
7	日商簿記検定試験6月試験に向けての学習
8	日商簿記検定試験6月試験に向けての学習
9	財務諸表の作り方
10	財務諸表の作り方
11	財務諸表の作り方
12	財務諸表の読み方
13	財務諸表の読み方
14	財務諸表の読み方
15	財務諸表の読み方
16	まとめ

【履修上の注意事項】

会計コースを選択した学生しか登録できません。

【評価方法】

出席，発表，課題などで，総合的に評価します。

【テキスト】

使用しません。

【参考文献】

必要に応じ，講義中に紹介します。

基礎演習 II

担当教員 清村 英之

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

簿記の技能は、会計コースで様々な専門科目を履修するに当たって不可欠です。したがって、この演習では、第一に日商簿記検定試験2級の資格取得を目指します。また、会計学の全容を明らかにし、それぞれの領域を紹介することによって会計学への興味を喚起する、つまり会計学への誘いが第二の目的です。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	日商簿記検定試験11月試験に向けての学習
3	日商簿記検定試験11月試験に向けての学習
4	日商簿記検定試験11月試験に向けての学習
5	日商簿記検定試験11月試験に向けての学習
6	日商簿記検定試験11月試験に向けての学習
7	貨幣の時間価値
8	貨幣の時間価値
9	貨幣の時間価値
10	キャッシュ・フロー計算書の作成
11	キャッシュ・フロー計算書の作成
12	キャッシュ・フロー計算書の作成
13	会計の国際化
14	会計の国際化
15	会計の国際化
16	まとめ

【履修上の注意事項】

会計コースを選択し、「基礎演習 I」を履修済みの学生しか登録できません。

【評価方法】

出席，発表，課題などで，総合的に評価します。

【テキスト】

使用しません。

【参考文献】

必要に応じ，講義中に紹介します。

基礎演習Ⅱ

担当教員 宮森 正樹

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

基礎演習Ⅱ

担当教員 岩橋 建治

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

経営学は、ひと・もの・かね・情報などの経営資源を、総合的にどう組み合わせれば、組織としてより効果的な働きをもたらすのかを考える学問です。この授業では、ケーススタディを中心に、経営学に関する予備知識を身につけます。その過程で、大学で学ぶためのさまざまな方法を習得します。具体的には、①資料収集とパワーポイント作成を通じて情報の取捨選択と要約の仕方を理解します。②報告を通じて「自分が伝えたいこと」を簡潔かつ的確に伝えるためのスキルを高めます。③討論を通じて他者と共同して問題解決にあたるプロセスを学びます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	はじめに： 班分けなど
2	企業を起こす： 大学発ベンチャー
3	環境・戦略・組織： フォード、GM
4	企業の知識体系： シャープ
5	いかに競争するか： マクドナルド、モスバーガー
6	事業のストラクチャリングと組織改革： GE
7	M&Aと外部資源の利用： ソニー
8	いかに国際化するか： ノキア
9	日本的生産システム： トヨタ
10	組織の革新と再生： 松下電器産業（現・パナソニック）
11	日本的経営と人事管理制度： ブラザー工業
12	消費者の変化に対応する事業システム： セブン-イレブン・ジャパン
13	ニーズの絞り込みによる市場創造： ライオン
14	ビジネスの倫理： 三菱ふそう
15	後期のまとめ
16	

【履修上の注意事項】

積極的な発言を求めます。各班のパワーポイント報告では、ビジュアルに関する効果的手法や、聴き手に関心をもたせる話し方など、プレゼンテーションのスキルについても適宜指導していきます。

【評価方法】

出席、演習への貢献度、および課題の完成度などにより総合的に評価します。なお、自分の班が報告班または討論班のときに正当な理由なく欠席した場合は、大きくペナルティーがつきます。

【テキスト】

東北大学経営学グループ（2008）『ケースに学ぶ経営学 [新版]』有斐閣ブックス。

【参考文献】

適宜紹介します。

業績管理会計

担当教員 木村 眞実

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

業績管理会計と戦略管理会計の授業を通じて、基本の管理会計システムを学習することを目的とします。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	第1章 管理会計の意義
3	第2章 管理会計の基礎概念
4	つづき
5	第3章 意思決定アプローチの方法
6	つづき
7	第4章 業績管理アプローチの方法
8	つづき
9	第5章 原価管理
10	つづき
11	第6章 長期経営計画
12	つづき
13	第7章 設備投資計画
14	つづき
15	これまでの復習
16	試験

【履修上の注意事項】

工業簿記Ⅰを履修済み、または原価計算Ⅰを履修済み、または日商簿記検定試験2級レベルの知識があるほうが望ましいです。

【評価方法】

定期試験70%、平常点（小テスト・宿題等）30%

【テキスト】

谷武幸著『エッセンシャル管理会計（第2版）』中央経済社

【参考文献】

グローバル・マーケティング演習

担当教員 一董 宜嫻

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「グローバル マーケティング総論」と演習のセットで履修することより、履修生の海外ビジネスセンスを磨き上げることを目的とします。参考文献の内容について解説した後に、学生の皆さんに県内企業の事例について報告してもらう予定です。個人またはグループ発表も可能です。

【授業の展開計画】

1. クラスの予定の説明
2. 講義・討論 (Apple社の事例1)
3. 講義・討論 (Apple社の事例2)
4. 講義・討論 (Starbucksの事例1)
5. 講義・討論 (Starbucksの事例2)
6. 講義・報告・討論 (県企業の事例)
7. 講義・報告・討論 (県企業の事例)
8. 講義・報告・討論 (県企業の事例)
9. 講義・報告・討論 (県企業の事例)
10. 講義・報告・討論 (県企業の事例)
11. 講義・報告・討論 (県企業の事例)
12. 講義・報告・討論 (県企業の事例)
13. 講義・報告・討論 (県企業の事例)
14. 講義・報告・討論 (県企業の事例)
15. レポート提出(県産品のグローバル化)
16. まとめ

【履修上の注意事項】

- ①個人発表をする。
- ②レポートを必ず提出する。

【評価方法】

課題一回、発表一回、出席及び受講態度などで総合的に評価する。

【テキスト】

- ①丸谷雄一郎(2006)『グローバル マーケティング』創成社。

【参考文献】

- ①宮城弘岩(2010)『沖縄物産の展海』ポーターインク発行
- ②琉球新報 社編(2011)『ものづくり 邦一地場産業力』琉球新報社

グローバル・マーケティング総論

担当教員 一董 宜嫻

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「グローバル・マーケティング総論」は国際経営の関連科目です。ここでは海外ビジネス能力を実践的に養います。国際的なマーケティング活動を、多様な面から捉え、履修生の国際感覚を磨きます。国際交流に興味のある学生は大歓迎です。

【授業の展開計画】

- 1) グローバル マーケティング戦略の枠組み
- 2) 地域マーケティングとグローバル・マーケティング
- 3) 理論の説明(国際製品ライフサイクルモデル)
- 4) 理論の説明(業界の構造分析)
- 5) グローバル消費者とSTP分析
- 6) 外部環境分析(BOP、新興市場)
- 7) グローバル・マーケティング戦略1 (マーケット参入と拡大戦略)
- 8) グローバル・マーケティング戦略2 (国際提携戦略)
- 9) グローバル・マーケティング戦略3 (ブランド戦略)
- 10) グローバル・マーケティング・プランの設定1 (グローバル製品・グローバル価格)
- 11) グローバル・マーケティング・プランの設定2 (流通・広告・販売管理・PRなど)
- 12) 花王と資生堂のケース(日本型マーケティング)
- 13) P&Gの事例(アメリカ型マーケティング)
- 14) グローバル マーケティング の実践学習
- 15) 練習問題解答
- 16) まとめ

【履修上の注意事項】

- (1) 本科目は「グローバル・マーケティング演習」と連続したプログラムを組んでいる。総論で理論の学習→演習で実習プロジェクトを行うので、グローバル・マーケティング演習とセットで登録することが望ましい。
- (2) プリント学習に取り組む必要がある。

【評価方法】

期末テスト、出席および受講態度などで総合的に評価する。

【テキスト】

- ① 丸谷雄一郎(2006)『グローバル・マーケティング』創成社。
なおテキスト購入は必須ではありません。適宜、プリントを配布する予定です。

【参考文献】

- ① 沼上幹(2002)『分かりやすいマーケティング戦略』有斐閣。
- ② 藤澤武史(2013)『グローバル・マーケティング・イノベーション』同文館。

経営管理論 I

担当教員 天野 敦央

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

年間テーマを「経営計画と経営統制」とする。本科目は、通年科目（全年科目）合計4.00単位に相当する。経営管理は①生産管理、②労務管理、③販売管理、④財務管理、および⑤経営組織の、各部に分かち把握せられる。前期は、このなかでも、①生産管理と③販売管理の部分に、おおくの時間をさいて論じていく。（なお各学期の初回講義(4,9月)には必ず出席し、登録手続を行なってください。本科目は面談による抽選科目です。登録手続が不備だと正式登録・採点・評価をされないことがあります。）

【授業の展開計画】

なお、本講座においては、ビデオやチャートなどの教材を多用するなどして学生諸君が興味をもって研究にとりくめるような運用をめざしていきたい。

週	授 業 の 内 容
1	講義のすすめ方、評価のしかた
2	経営概念
3	企業概念
4	経営職能
5	テーラー＝システム
6	フォード＝システム
7	オートメーション
8	労働科学
9	人間関係論
10	行動科学
11	テーラー式組織
12	伝統的組織論
13	自生組織と成分組織
14	まとめ講義
15	講 評
16	

【履修上の注意事項】

開講時期に指示する。

【評価方法】

平常点（小テスト成績を含む）および、レポートなどで総合的に評価する。

【テキスト】

未定

【参考文献】

小松『経営学』サイエンス社／占部都美『新訂経営管理論』白桃書房／藻利重隆『経営管理総論』千倉書房。

経営管理論Ⅱ

担当教員 天野 敦央

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

年間テーマを「経営計画と経営統制」とする。本講座は、通年科目（全年科目）合計4.00単位に相当する。経営管理は①生産管理、②労務管理、③販売管理、④財務管理、および⑤経営組織の、各部に分かち把握せられる。後期は、このなかでも、②労務管理、④財務管理と、⑤経営組織の部分に、おおくの時間をさいて論じていく。（なお各学期の初回講義(4,9月)には必ず出席し、登録手続を行なってください。本科目は面談による抽選科目です。登録手続が不備だと正式登録・採点・評価をされないことがあります。）

【授業の展開計画】

なお、本講座においては、ビデオやチャートなどの教材を多用するなどして学生諸君が興味をもって研究にとりくめるような運用をめざしていきたい。

週	授 業 の 内 容
1	経営戦略概論
2	戦略的組織
3	企業成長
4	生存領域の規定（1）
5	生存領域の規定（2）
6	生存領域の規定（3）
7	資源展開の戦略（1）
8	資源展開の戦略（2）
9	競争の戦略（1）
10	競争の戦略（2）
11	競争の戦略（3）
12	組織間関係の戦略
13	教材学習
14	まとめ講義
15	講 評
16	

【履修上の注意事項】

開講時期に指示する。

【評価方法】

レポートと平常点により総合的に評価する。

【テキスト】

未定

【参考文献】

小川英次ほか（編）『経営学の基礎知識』有斐閣／伊丹敬之ほか『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞社／芝川林也（編）『経営学演習』同文館

経営学総論 I

担当教員 佐久本 朝一

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

経済社会における企業の役割と経営管理に関する一般理論の把握を目指します。

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

教科書の内容を自己の表現で要約するレポート形式による評価

【テキスト】

佐久本著「技術革新下の日本型企业社会」ユージン伝

【参考文献】

経営学総論 I

担当教員 天野 敦央

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

企業は、これまで生成、発展の過程をたどり、今日では社会に多大な影響を及ぼしている。経営学は、そうした企業の営み（経営活動）について学ぶ学問である。なお本講義は抽選科目である。各学期の初回講義(4,9月)では面談のうえ、受講許可者(抽選結果)を発表するので必ず出席されたい。

【授業の展開計画】

- | 回 | 内容 |
|----|---------------|
| 1 | 経営学という学問 |
| 2 | イギリスにおける企業の発展 |
| 3 | アメリカにおける企業の発展 |
| 4 | 日本における企業の発展 |
| 5 | 科学的管理法 |
| 6 | フォードシステム |
| 7 | 人間関係論 |
| 8 | 意思決定論 |
| 9 | 動機付け理論 |
| 10 | 欲求5段階説 |
| 11 | 単位組織と複合組織 |
| 12 | 経営組織の基本形態 |
| 13 | 経営組織の階層と機能 |
| 14 | 経営組織の応用形態 |
| 15 | 教材学習 |

【履修上の注意事項】

私語は厳につつしんでもらう。なお企業の経営活動は、生産、販売（マーケティング）、財務、人事、組織など多面にわたって、展開されている。経営学は、そうした企業の各々の活動について学ぶ各論（例えば、生産管理論、販売管理論、財務管理論、人事管理論）によって構成されている。

本講義は、これらの各論を学ぶ前に、入門的概括的な知識を得るために用意されたカリキュラムである。

【評価方法】

平常点およびレポートなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

適宜紹介する。

【参考文献】

佐久間『経営学概論』創成社

経営学総論Ⅱ

担当教員 佐久本 朝一

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

経営学に関する一般理論の把握と国際経営の取り組みについて

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

佐久本著「技術革新下の日本型企业社会」ユージン伝

【参考文献】

経営学総論Ⅱ

担当教員 天野 敦央

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

企業は、これまで生成、発展の過程をたどり、今日では社会に多大な影響を及ぼしている。経営学は、そうした企業の営み（経営活動）について学ぶ学問である。なお本講義は抽選科目である。各学期の初回講義（4,9月）では面談のうえ、受講許可者（抽選結果）を発表するので必ず出席されたい。（登録手続が不備だと正式登録・採点・評価をされないことがあります。）

【授業の展開計画】

- | 回 | 内容 |
|----|-------------------|
| 1 | 環境の変化と経営戦略 |
| 2 | 多角化戦略 |
| 3 | 競争戦略 |
| 4 | グローバル戦略 |
| 5 | アメリカにおける経営者の形成 |
| 6 | 日本における経営者の形成 |
| 7 | 所有と経営の分離 |
| 8 | 経営者の職能 |
| 9 | コーポレート・ガバナンス理論 |
| 10 | アメリカのコーポレート・ガバナンス |
| 11 | 日本のコーポレート・ガバナンス |
| 12 | アメリカの経営理念 |
| 13 | 日本の経営理念・日本の経営課題 |
| 14 | まとめ講義 |
| 15 | 講評 |

【履修上の注意事項】

私語は厳につつしんでもらう。なお企業の経営活動は、生産、販売（マーケティング）、財務、人事、組織など多面にわたって、展開されている。経営学は、そうした企業の各々の活動について学ぶ各論（例えば、生産管理論、販売管理論、財務管理論、人事管理論）によって構成されている。経営学総論は、これらの各論を学ぶ前に、入門的概括的な知識を得るために用意されたカリキュラムである。

【評価方法】

平常点（小テストの成績を含む）やレポートにより総合的に評価する。

【テキスト】

適宜紹介する。

【参考文献】

適宜紹介する。

経営情報処理 I

担当教員 及川 卓郎

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

多くの人に調査結果や分析結果を理解してもらうためには、客観性がありかつわかりやすい説明をしなければなりません。そのために、数値を使って説明することになります。数値を使って説明することで、だれでも同質の判断力を持つことができるようになるわけです。数値としてまとめる方法で、威力を発揮する方法が統計処理です。この授業では、主に表計算ソフトのエクセルを使って基本的な統計処理方法を演習していきます。また、統計分析を通して、経営品質を向上させる方法にも言及していきます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	授業のガイダンス、成績評価について、学習方法
2	表計算ソフトエクセルの基本
3	表計算ソフトエクセルの使用法
4	度数分布表の作成とヒストグラムの作成演習
5	正規分布の特性の理解
6	正規分布の利用
7	中間試験
8	中心極限定理に関するシミュレーション実験
9	統計的仮説検定の考え方
10	記述統計量の利用
11	回帰分析に関する演習
12	相関分析に関する演習
13	平均値の差の検定
14	RとRコマンドーを利用した統計分析
15	分散分析の利用方法に関する演習
16	最終試験

【履修上の注意事項】

毎回、情報実習室のパソコンを利用して授業を行いますので、パソコンにログインできるようにID、パスワードなどを用意しておいてください。

【評価方法】

中間試験と最終試験で評価します。出席点も考慮します。

【テキスト】

特になし。授業時間に配布したプリント、資料にそって授業を進めていきます。

【参考文献】

特になし

経営情報処理Ⅱ

担当教員 及川 卓郎

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

多くの人に調査結果や分析結果を理解してもらうためには、客観性がありかつわかりやすい説明をしなければなりません。そのために、数値を使って説明することになります。数値を使って説明することで、だれでも同質の判断力を持つことができるようになるわけです。数値としてまとめる方法で、威力を発揮する方法が統計処理です。この授業では、主に表計算ソフトのエクセルを使って基本的な統計処理方法を演習していきます。また、統計分析を通して、経営品質を向上させる方法にも言及していきます。

【授業の展開計画】

1. 授業のガイダンス、成績評価について、学習方法
2. 表計算ソフトエクセルの基本
3. 表計算ソフトエクセルの使用法
4. 度数分布表の作成とヒストグラムの作成演習
5. 正規分布の特性の理解
6. 正規分布の利用
7. 中間試験
8. 中心極限定理に関するシミュレーション実験
9. 統計的仮説検定の考え方
10. 記述統計量の利用
11. 回帰分析に関する演習
12. 相関分析に関する演習
13. 平均値の差の検定
14. RとRコマンドーを利用した統計分析
15. 分散分析の利用方法に関する演習
16. 最終試験

【履修上の注意事項】

” 毎回、情報実習室のパソコンを利用して授業を行いますので、パソコンにログインできるようにID、パスワードなどを用意しておいてください。”

【評価方法】

中間試験と最終試験で評価します。出席点も考慮します。

【テキスト】

特になし。授業時間に配布したプリント、資料にそって授業を進めていきます。

【参考文献】

特になし

経営戦略論

担当教員 與那原 建

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

経営分析

担当教員 清村 英之

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この講義では、会社が公表する会計データの集め方と、その利用の仕方を解説します。具体的には、実際にインターネット等を通じて入手した実際の会社情報（会計データ）を、様々な分析手法を用いて計算し、それを解釈することによって、会計データの使い方を修得します。

なお、会計データの使い方を学ぶためには、その作り方を知らなければならないので、講義前半では会計データの作り方を解説します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	経営分析の意義
3	会計情報（会計データ）の集め方
4	貸借対照表の見方
5	損益計算書の見方
6	キャッシュ・フロー計算書の見方
7	会社の全体像をつかむ
8	会社の成長性をつかむ
9	会社の収益力をはかる
10	安全な会社の見分け方
11	会社の社会性を読む
12	会社の資金運用力を見る
13	損益分岐点を計算する
14	会社を総合的に評価する
15	分析をする際の留意点
16	期末テスト

【履修上の注意事項】

- ① 「商業簿記Ⅰ」「同Ⅱ」（または「簿記原理Ⅰ」「同Ⅱ」8単位分）を履修済みの学生（またはそれと同等の能力を持つ学生）しか登録できません。
- ② 初回講義に欠席した場合、登録を取り消すこともあります。

【評価方法】

出席20%，テスト80%で評価します

【テキスト】

使用しません。

【参考文献】

森田松太郎『ビジネスゼミナール経営分析入門・第3版』日本経済新聞社。
田中弘『経営分析：会計データを読む技法』中央経済社。

経営分析演習

担当教員 清村 英之

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この講義では、「経営分析」で学んだ会計データの集め方・利用の仕方を活かして、実際に経営分析を行います。具体的には、受講生各自が分析対象企業を選択し、インターネット等を通じて会社情報（会計データ）を入力し、様々な分析手法を用いて計算し、それを解釈し、レポートにまとめます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	分析企業の選択
3	会社情報（会計データ）の収集
4	会社の全体像をつかむ：①平均貸借対照表の作成
5	〃 ②平均損益計算書の作成
6	会社の成長性をつかむ：伸び率の計算
7	会社の収益力をはかる：①資本利益率の計算
8	〃 ②売上高利益率の計算
9	〃 ③資本回転率の計算
10	〃 ④損益分岐点の計算
11	安全な会社の見分け方：①短期的な安全性の分析
12	〃 ②長期的な安全性の分析
13	会社の社会性を読む：付加価値の計算
14	会社の資金運用力を見る
15	会社を総合的に評価する
16	レポート提出

【履修上の注意事項】

「経営分析」を履修済みの学生しか登録できません。

【評価方法】

出席20%，レポート80%で評価します。

【テキスト】

使用しません。

【参考文献】

森田松太郎『ビジネスゼミナール経営分析入門・第3版』日本経済新聞社。
田中弘『経営分析：会計データを読む技法』中央経済社。

経済原論 I

担当教員 仲地 健

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

経済学はミクロ経済学とマクロ経済学の二つに大きく分けられるが、「経済原論 I」ではミクロ経済学を学ぶ。具体的には、経済を構成する個々の消費者や企業はどのような行動をとるのか、市場において財・サービスの価格や数量はどのように決定されるのかを学ぶ。”

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義内容と講義の進め方、成績評価方法を説明する。
2	需要曲線と供給曲線
3	市場均衡と均衡の安定性
4	需要曲線・供給曲線のシフト
5	価格弾力性①
6	価格弾力性②
7	余剰分析①
8	余剰分析②
9	消費者行動の理論①
10	消費者行動の理論②
11	生産者行動の理論①
12	生産者行動の理論②
13	パレート最適
14	市場の失敗と独占
15	講義の総括
16	期末試験

【履修上の注意事項】

私語は厳禁。

【評価方法】

試験結果で評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

石川秀樹『速習！ミクロ経済学一試験攻略入門塾』中央経済社2011年。

経済原論Ⅱ

担当教員 仲地 健

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

マクロ経済学とは、一国の経済を個人の総体である家計部門、企業の総体である企業部門および政府部門の3つの主体による活動と捉え、社会全体を包括的に分析する学問である。マクロ経済学を学ぶ目的は、国民所得はどのように決定されるのか、デフレや失業といった経済現象がなぜ生じるのか、といったことを理解することにある。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義内容と講義の進め方、成績評価方法を説明する。
2	国民所得の諸概念
3	財市場分析① 有効需要の原理
4	財市場分析② 消費関数・投資関数
5	財市場分析③ 均衡国民所得
6	財市場分析④ 乗数理論
7	財市場分析⑤ 政府部門の導入
8	財市場分析⑥ 海外部門の導入
9	貨幣市場分析①
10	貨幣市場分析②
11	IS-LM分析① IS曲線の導出
12	IS-LM分析② LM曲線の導出
13	特殊なIS-LM曲線
14	クラウディング・アウト
15	講義の総括
16	期末試験

【履修上の注意事項】

私語は厳禁。

【評価方法】

試験結果で評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

石川秀樹『速習！ミクロ経済学一試験攻略入門塾』中央経済社2011年

原価計算 I

担当教員 木村 眞実

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本授業では、原価計算の基本的な問題を通じて、「原価計算の考え方」を学ぶことを目的とします。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	第1章 原価計算の意義・目的
3	第2章 原価の概念
4	第3章 原価の費目別計算
5	第4章 原価の部門別計算
6	練習問題
7	第5章 単純総合原価計算
8	練習問題
9	第6章 工程別総合原価計算
10	練習問題
11	第7章 組別総合原価計算
12	練習問題
13	第8章 個別原価計算
14	練習問題
15	これまでの復習
16	試験

【履修上の注意事項】

工業簿記 I を履修済み、または日商簿記検定試験2級レベルの知識があるほうが望ましいです。

【評価方法】

定期試験70%、平常点（小テスト・宿題等）30%

【テキスト】

谷武幸編著『エッセンシャル原価計算』中央経済社

【参考文献】

滝澤ななみ『簿記の教科書日商2級 工業簿記』TAC出版

原価計算Ⅱ

担当教員 木村 眞実

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本授業では、原価計算の基本的な問題を通じて、「原価計算の考え方」を学ぶことを目的とします。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	第8章までの復習
3	第9章 標準原価計算と標準原価の設定
4	練習問題
5	第10章 原価管理と原価差異分析
6	練習問題
7	第11章 直接原価計算
8	練習問題
9	第12章 意思決定の差額分析
10	練習問題
11	第13章 ABC/ABM
12	練習問題
13	第14章 品質原価計算
14	練習問題
15	これまでの復習
16	試験

【履修上の注意事項】

工業簿記Ⅰを履修済み、または日商簿記検定試験2級レベルの知識があるほうが望ましいです。

【評価方法】

定期試験70%、平常点（小テスト・宿題等）30%

【テキスト】

谷武幸編著『エッセンシャル原価計算』中央経済社

【参考文献】

滝澤ななみ『簿記の教科書日商2級 工業簿記』TAC出版

工業簿記 I

担当教員 木村 眞実

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本授業では、日商簿記検定試験2級工業簿記を意識し、工業簿記の問題を概ね解答できるようになることを目的としています。

【授業の展開計画】

工業簿記 I・IIを通じて、日商簿記検定試験2級工業簿記の範囲を学習します。授業ではテキストで解説を行い、トレーニングで問題に取り組みます。なお、工業簿記 I と II には、前期に工業簿記 I と II を開講する授業と、前期に工業簿記 I を後期に工業簿記 II を開講する授業があります。短期集中の学習を希望する方（前期に一通り学習を終えたい方、11月の検定試験受験を予定している方等）には前期開講の授業、長期での学習を希望する方等には通年開講の授業をお勧めします。

週	授 業 の 内 容
1	テーマ1工業簿記の基礎
2	テーマ2工業簿記の勘定連絡
3	テーマ3材料費（I）
4	テーマ4材料費（II）
5	テーマ5労務費（I）
6	テーマ6労務費（II）
7	テーマ7経費
8	テーマ8個別原価計算（I）
9	テーマ8個別原価計算（I）つづき 製造間接費の予定配賦
10	テーマ9個別原価計算（II）
11	テーマ10部門別個別原価計算（I）
12	テーマ10部門別個別原価計算（I）つづき 第2次集計
13	テーマ11部門別個別原価計算（II）
14	テーマ11部門別個別原価計算（II）つづき 製造部門費の予定配賦
15	これまでの復習
16	試験

【履修上の注意事項】

基礎知識：簿記で学習した「振替仕訳」を理解していること。持ち物：テキスト・トレーニング（無いと授業が楽しくありません）、電卓（12桁以上）。※本授業の履修を決めた方は、第1回の授業に間に合うように、テキスト・トレーニングを、早く入手して下さい。その他：本授業によって、日商簿記検定試験2級工業簿記レベルの問題を概ね解答できるようになりますが、2級「合格」のためには自主学習が必要です。

【評価方法】

定期試験70%、平常点（小テスト・宿題等）30%

【テキスト】

- ・TAC簿記検定講座『合格テキスト日商簿記2級工業簿記 ※最新版』TAC出版
- ・TAC簿記検定講座『合格トレーニング日商簿記2級工業簿記 ※最新版』TAC出版

【参考文献】

- ・滝澤ななみ『簿記の教科書日商2級 工業簿記』TAC出版
- ・TAC簿記検定講座『日商簿記2級 網羅型完全予想問題集』TAC出版

工業簿記Ⅱ

担当教員 木村 眞実

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本授業では、日商簿記検定試験2級工業簿記を意識し、工業簿記の問題を概ね解答できるようになることを目的としています。

【授業の展開計画】

工業簿記Ⅰ・Ⅱを通じて、日商簿記検定試験2級工業簿記の範囲を学習します。授業ではテキストで解説を行い、トレーニングで問題に取り組みます。なお、工業簿記ⅠとⅡには、前期に工業簿記ⅠとⅡを開講する授業と、前期に工業簿記Ⅰを後期に工業簿記Ⅱを開講する授業があります。短期集中の学習を希望する方（前期に一通り学習を終えたい方、11月の検定試験受験を予定している方等）には前期開講の授業を、長期での学習を希望する方等には通年開講の授業をお勧めします。

週	授 業 の 内 容
1	テーマ12総合原価計算（Ⅰ）
2	テーマ13総合原価計算（Ⅱ）
3	テーマ13総合原価計算（Ⅱ）つづき 直接材料の投入方法
4	テーマ14総合原価計算（Ⅲ）
5	テーマ14総合原価計算（Ⅲ）つづき 減損・先入先出法
6	テーマ15総合原価計算（Ⅳ）
7	テーマ16総合原価計算（Ⅴ）
8	テーマ17財務諸表
9	テーマ18標準原価計算（Ⅰ）
10	テーマ19標準原価計算（Ⅱ）
11	テーマ20標準原価計算（Ⅱ）つづき 製造間接費差異の分析
12	テーマ20直接原価計算（Ⅰ）
13	テーマ21直接原価計算（Ⅱ）
14	テーマ21直接原価計算（Ⅱ）つづき 原価の固定分解
15	テーマ22本社工場会計
16	

【履修上の注意事項】

基礎知識：簿記で学習した「振替仕訳」を理解していること。持ち物：テキスト・トレーニング（無いと授業が楽しくありません）、電卓（12桁以上）。※本授業の履修を決めた方は、第1回の授業に間に合うように、テキスト・トレーニングを、早く入手して下さい。その他：本授業によって、日商簿記検定試験2級工業簿記レベルの問題を概ね解答できるようになりますが、2級「合格」のためには自主学習が必要です。

【評価方法】

定期試験70%、平常点（小テスト・宿題等）30%

【テキスト】

- ・TAC簿記検定講座『合格テキスト日商簿記2級工業簿記 ※最新版』TAC出版
- ・TAC簿記検定講座『合格トレーニング日商簿記2級工業簿記 ※最新版』TAC出版

【参考文献】

- ・滝澤ななみ『簿記の教科書日商2級 工業簿記』TAC出版
- ・TAC簿記検定講座『日商簿記2級 網羅型完全予想問題集』TAC出版

広告論

担当教員 宮森 正樹

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

小売流通論 I

担当教員 河田 賢一

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は、学生の皆さんが日々利用している小売業における大きな変化を様々な現代的な視点から見ていきます。小売業のイノベーションの回ではユニクロ、大手小売業の再編の回ではイオンを取り上げます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	日本経済の構造変化と流通業①
3	日本経済の構造変化と流通業②
4	小売業のイノベーション①
5	小売業のイノベーション②
6	小売業のイノベーション③
7	小売業のイノベーション④
8	大手小売業の再編①
9	大手小売業の再編②
10	大手小売業の再編③
11	大手小売業の再編④
12	外資小売のインパクト①
13	外資小売のインパクト②
14	外資小売のインパクト③
15	講義のまとめ
16	期末試験

【履修上の注意事項】

講義開始とともに出席カードを配布します。その時点で教室にいない場合は欠席となります。長時間教室に戻ってこない場合には欠席扱いとなります。

【評価方法】

期末試験（70%）、出席点および受講態度（30%）

【テキスト】

伊藤元重編（2005）『日本の産業システム6 新流通産業』NTT出版

【参考文献】

小売流通論Ⅱ

担当教員 河田 賢一

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は、学生の皆さんが日々利用している小売業における大きな変化を様々な現代的な視点から見ていきます。また沖縄県内の小売業についても分析していきます。沖縄県内の小売業についても取り上げるため3年生には就職活動に役立つと思います。コンビニエンスストアの革新の回では、お弁当などの日配商品の廃棄問題についても取り上げます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	沖縄県内の小売業
3	百貨店はどこへ行くのか①
4	百貨店はどこへ行くのか②
5	百貨店はどこへ行くのか③
6	コンビニエンスストアの革新①
7	コンビニエンスストアの革新②
8	コンビニエンスストアの革新③
9	コンビニエンスストアの革新④
10	戦後の日本における小売業発展のダイナミズム①
11	戦後の日本における小売業発展のダイナミズム②
12	戦後の日本における小売業発展のダイナミズム③
13	新物流産業の登場①
14	新物流産業の登場②
15	講義のまとめ
16	期末試験

【履修上の注意事項】

講義開始とともに出席カードを配布します。その時点で教室にいない場合には欠席となります。長時間教室に戻ってこない場合には欠席扱いとなります。

【評価方法】

期末試験（70%）、出席点および受講態度（30%）

【テキスト】

伊藤元重編（2005）『日本の産業システム6 新流通産業』NTT出版

【参考文献】

国際関係論

担当教員 安座真 喜松

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

国際経営論 I

担当教員 天野 敦央

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

年間テーマを「中国経営」とする。本講義は、通年科目（全年科目）合計4.00単位に相当する。外国における経営管理の状況やそこで経営戦略の展開を研究するには、国内経営の研究同様に、体系的に知識把握することが比較的有効であると思われる。そうした考えにしたがい講義を行う。（なお各学期の初回講義(4,9月)には必ず出席し、登録手続を行なってください。本科目は面談による抽選科目です。登録手続が不備だと正式登録・採点・評価をされないことがあります。）

【授業の展開計画】

本講座では、中国本土（中華人民共和国）の工場管理を例にとり、外国経営研究にとりくんでいく。東側国家や、発展途上国に特有の事象についても言及したい。

週	授 業 の 内 容
1	講義のすすめ方、評価のしかた
2	経営・企業概念
3	外国経営研究
4	中国経営研究
5	経営回復期
6	第1次五カ年計画の時期
7	大躍進の時期
8	経済調整政策の時期
9	文化大革命の時期
10	第4次五か年計画の時期
11	華国鋒政権の時期
12	経済改革政策への着手
13	経済改革の停滞期
14	まとめ講義
15	講 評
16	

【履修上の注意事項】

開講時期に指示する。なお体系的な知識把握とは、たとえば経営管理の状況を理解したいのであれば、①生産管理、②労働管理、③販売管理、④財務管理、および⑤経営組織といったような諸部分にそって把握していくことである。このことは、どこの国の経済・経営を研究する場合にも、応用できることといえるのでとくに留意されたい。

【評価方法】

平常点（小テスト成績を含む）および、レポートなどで総合的に評価する。

【テキスト】

未定

【参考文献】

小川英次ほか（編）『経営学の基礎知識』有斐閣／伊丹敬之ほか『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞社／芝川林也（編）『経営学演習』同文館

国際経営論Ⅱ

担当教員 天野 敦央

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

年間テーマを「中国経営」とする。本講義は、通年科目（全年科目）合計4.00単位に相当する。外国における経営管理の状況やそこで経営戦略の展開を研究するには、国内経営の研究同様に、体系的に知識把握することが比較的有効であると思われる。そのような考えにしたがい講義をおこなう。（なお各学期の初回講義(4,9月)には必ず出席し、登録手続を行なってください。本科目は面談による抽選科目です。登録手続が不備だと正式登録・採点・評価をされないことがあります。）

【授業の展開計画】

本講座では、中国本土（中華人民共和国）の工場管理を例にとり、外国経営研究にとりくんでいく。東側国家や、発展途上国に特有の自称についても言及したい。

週	授 業 の 内 容
1	経済改革・対外開放政策期
2	経営管理原則・内部経営管理組織
3	上級経営管理組織
4	経営管理制度（1）
5	経営管理制度（2）
6	国営工場の生産管理
7	国営工場の労働管理
8	国営工場の販売管理
9	国営工場の財務管理
10	企業形態
11	工場におけるイデオロギー的活動
12	工場における政治活動
13	教材学習
14	まとめ講義
15	講 評
16	

【履修上の注意事項】

開講時期に指示する。なお体系的な知識把握とは、たとえば経営管理の状況を理解したいのであれば、①生産管理、②労働管理、③販売管理、④財務管理、および⑤経営組織といったような諸部分にそって把握していくことである。このことは、どこの国の経済・経営を研究する場合にも、応用できることといえるのでとくに留意されたい。

【評価方法】

小テストの評点に、出席点を加味し、最終的な評価を決定する。

【テキスト】

未定

【参考文献】

小川英次ほか（編）『経営学の基礎知識』有斐閣／伊丹敬之ほか『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞社／芝川林也（編）『経営学演習』同文館

国際経済学

担当教員 仲地 健

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

世界的に進展している経済活動のグローバル化の現状を把握し、その背後にあるメカニズムを理解するための国際経済学の基礎的理論を学習し習得すること。

【授業の展開計画】

本講義では、経済活動のグローバル化が進展している状況を把握しながら、国際経済学の基礎知識を理論的に講義する。前半では、国際貿易の基礎理論を中心に講義する。後半では、経済政策の効果について学ぶ。

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション
2	国際貿易と日本の経済成長①
3	国際貿易と日本の経済成長②
4	貿易の基礎理論① 貿易の基本的メカニズム
5	貿易の基礎理論② 比較優位と絶対優位・為替レート調整
6	貿易の基礎理論③ ヘクシャー＝オリーンの命題、プロダクト・サイクル理論、雁行形態論
7	貿易政策と経済厚生① 消費者余剰と生産者余剰、輸入関税、輸入割当
8	貿易政策と経済厚生② 輸出自主規制、輸出税、輸出補助金
9	為替レートの決定①
10	為替レートの決定②
11	IS-LM分析① IS曲線とLM曲線
12	IS-LM分析② 固定相場制における財政・金融政策
13	IS-LM分析③ 変動相場制における財政・金融政策
14	ポリシーミックス
15	まとめ
16	期末試験

【履修上の注意事項】

私語は厳禁。

【評価方法】

試験結果で評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

その都度紹介する。

コンピュータ会計

担当教員 松村 陽子

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義は会計ソフト（弥生会計）の演習を通じてコンピュータ会計の仕組み、考え方を学習するものである。ソフトの操作に習熟することによりコンピュータ会計の概要が理解できるように講義を進めるが、単なる技術のみでなく簿記・会計についても理解が深まるような内容にしたい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	コンピュータ会計の特徴、簿記一巡の手続きがどのようにソフト化されているか解説する
2	会社ファイルの作成、仕訳入力の方法について学習する
3	仕訳入力の練習を行う
4	各種の帳簿による仕訳入力の方法について学び、練習を行う
5	各種の帳簿による仕訳入力の方法について学び、練習を行う
6	勘定科目体系を解説し、科目設定・科目変更・補助科目設定の方法を学習する
7	補助管理の必要性、方法について解説し、補助簿の作成を練習する
8	補助簿の作成練習を行う
9	確認試験を行う
10	給与関係の会計処理、入力法について学習する
11	コンピュータ会計の導入方法について学習する。期首導入の練習を行う
12	コンピュータ会計の導入方法について学習する。期中導入の練習を行う
13	決算処理について学習し、決算書の作成練習を行う
14	決算処理について学習し、決算書の作成練習を行う
15	決算処理について学習し、決算書の作成練習を行う
16	最終試験

【履修上の注意事項】

簿記の仕訳処理が毎回ありますので、簿記の基本的学習ができていたことが望ましいです。

講義開始時に出席を取ります。

講義は毎回新しく学習する操作があり、欠席するとその後の理解に支障をきたしますので欠席しないようにしてください。

その他受講する際の注意事項については、第一回目の講義の時に説明します。

【評価方法】

試験の結果（50％）と出席状況（25％）、授業への参加姿勢（25％）により評価します。やむを得ず欠席するときは欠席届を提出してください。

【テキスト】

テキストは使用しません。毎回練習用プリントを配ります。

【参考文献】

『コンピュータ会計入門』 山本誠編著 中央経済社
『電子会計 実務検定試験 公式ガイドブック』初級・中級 日本商工会議所編集

サービス・マーケティング

担当教員 宮森 正樹

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

財務会計 I

担当教員 鶴池 幸雄

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

現行の公表会計制度は、企業の一定時点の財政状態や一期間の経営成績並びに資金フローの状態を財務諸表の利用によって外部の利害関係者に報告することを目的としている。このような財務諸表によって企業のどのような活動が写像されているかを理解するためには、企業の資本活動が、会計システムという媒介によって、どのようにとらえられているかを理解することが本講のねらいである。

【授業の展開計画】

本講義では、企業が作成する財務諸表について、どのような企業活動が前提にあり、これがどのような考え方に基づいて認識、測定、記録、表示されているかについての学生の理解を深めることにする。そこでは我が国の会計原則の規範である「企業会計原則」を損益計算書を基本とし、当該財務諸表によってもたらされる企業活動情報の総合的な理解を図ることとする。

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	会計主体論
3	会計公準論
4	企業会計原則と会社法
5	企業会計の一般原則 I
6	企業会計の一般原則 II
7	損益計算書概論
8	収益・費用の認識と測定 I
9	収益・費用の認識と測定 II
10	収益・費用の認識と測定 III
11	費用と収益の対応
12	営業損益計算
13	期間業績計算
14	包括利益計算
15	損益計算書総論
16	試験

【履修上の注意事項】

商業簿記Ⅱ、会計学を履修済みであることが望ましい。

【評価方法】

授業への参加姿勢、試験、レポート等を総合的に評価する。

【テキスト】

『財務会計 最新1版』 広瀬 義州 中央経済社

【参考文献】

財務会計Ⅱ

担当教員 鶴池 幸雄

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

現行の公表会計制度は、企業の一定時点の財政状態や一期間の経営成績並びに資金フローの状態を財務諸表の利用によって外部の利害関係者に報告することを目的としている。このような財務諸表によって企業のどのような活動が写像されているかを理解するためには、企業の資本活動が、会計システムという媒介によって、どのようにとらえられているかを理解することが本講のねらいである。

【授業の展開計画】

本講義では、企業が作成する財務諸表について、どのような企業活動が前提にあり、これがどのような考え方に基づいて認識、測定、記録、表示されているかについての学生の理解を深めることにする。そこでは我が国の会計原則の規範である「企業会計原則」、貸借対照表を基本とし、企業グループ会計の視点を取り入れ、財務諸表によってもたらされる企業活動情報の総合的な理解を図ることにする。

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	貸借対照表概論
3	貸借対照表の分類基準
4	流動資産の会計処理Ⅰ
5	流動資産の会計処理Ⅱ
6	固定資産の会計処理Ⅰ
7	固定資産の会計処理Ⅱ
8	繰延資産の会計処理
9	負債の会計処理
10	純資産の部の会計処理
11	連結財務諸表Ⅰ（概論）
12	連結財務諸表Ⅱ（資本連結）
13	連結財務諸表Ⅲ（P/L、B/Sの作成）
14	連結財務諸表Ⅳ（連結財務諸表の利用）
15	試験
16	

【履修上の注意事項】

商業簿記Ⅱ、会计学、財務会計Ⅰを履修済みであることが望ましい。

【評価方法】

授業への参加姿勢、試験、レポート等を総合的に評価する

【テキスト】

『財務会計 最新版』 広瀬 義州 中央経済社

【参考文献】

資金会計

担当教員 鶴池 幸雄

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

今日、企業の実態を把握するための財務諸表のひとつとしてキャッシュ・フロー計算書が導入されている。これは、企業活動を総括的な資本活動だけではなく、「資金的」な視点から把握することの重要性の表れである。これにより、企業の「資金」が、どのような企業活動によって生み出され、また費消されているかを理解することが可能となる。企業内の資金の動きを理解し、より多角的に企業活動の把握を行うことが本講のねらいである。

【授業の展開計画】

本講義では、キャッシュ・フロー計算書を基本として企業資金活動がどのようにして会計上把握されるかを見ると同時に、キャッシュ・フロー計算が一期間の企業実体のフロー表示としてどのような重要性を持ちうるかを、実現損益計算によってもたらされる企業活動情報との比較を通じて多角的に考察していくことにする。そのことにより、企業の利害関係者に対する会計情報の果たす役割について学生のより深い理解を進めることにする。

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	資金会計概論
3	キャッシュ・フロー計算Ⅰ(概論)
4	キャッシュ・フロー計算Ⅱ(キャッシュ・フロー計算書の作成①)
5	キャッシュ・フロー計算Ⅲ(キャッシュ・フロー計算書の作成②)
6	キャッシュ・フロー計算Ⅳ(キャッシュ・フロー計算書の構造)
7	損益情報とキャッシュ・フロー計算書情報の比較
8	キャッシュ・フロー情報の利用(ディスカунティッド・キャッシュ・フロー)
9	キャッシュ・フロー情報の利用(ネット・プレゼント・バリュー)
10	キャッシュ・フロー情報の利用(キャッシュ・フロー計算書による企業分析)
11	外貨建資金取引の会計処理Ⅰ
12	外貨建資金取引の会計処理Ⅱ
13	金融資金取引の会計処理(リース取引)
14	金融資金取引の会計処理(デリバティブ取引)
15	キャッシュ・フローと企業会計
16	試験

【履修上の注意事項】

財務会計Ⅰを履修済みであることが望ましい。

【評価方法】

授業への参加、試験、レポートを総合して評価を行う

【テキスト】

受講時に指示する

【参考文献】

市場調査演習

担当教員 宮森 正樹

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

市場調査総論

担当教員 宮森 正樹

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

商業史

担当教員 河田 賢一

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義は、流通・商業の歴史について学んでいきます。流通・商業の歴史を年代ごとに見ていった場合、同年代に他業態（業界）の動きがあり、ひとつひとつを体系的に学んでゆくことができません。そこで本講義においてはひとつひとつの業態（業界）の歴史について学んでいきます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	百貨店の日本的展開とマーケティング①
3	百貨店の日本的展開とマーケティング②
4	百貨店の日本的展開とマーケティング③
5	スーパーの日本的展開とマーケティング①
6	スーパーの日本的展開とマーケティング②
7	スーパーの日本的展開とマーケティング③
8	コンビニエンスストアの日本的展開とマーケティング①
9	コンビニエンスストアの日本的展開とマーケティング②
10	コンビニエンスストアの日本的展開とマーケティング③
11	コンビニエンスストアの日本的展開とマーケティング④
12	生活協同組合の日本的展開とマーケティング①
13	生活協同組合の日本的展開とマーケティング②
14	生活協同組合の日本的展開とマーケティング③
15	講義のまとめ
16	期末試験

【履修上の注意事項】

講義開始時刻とともに出席カードを配布します。その時点で教室にいない場合は欠席となります。講義時間中に限らず、開始前・終了後に机に座った場合には減点となります。トイレに友人と一緒にに行く必要はありません。長時間教室に戻ってこない場合には欠席扱いとなります。講義時間中にタバコを吸いに行った場合には、即座に単位『不可』となります。

【評価方法】

期末試験（70%）、出席点・受講態度（30%）

【テキスト】

マーケティング史研究会編（2001）『日本流通産業史 -日本のマーケティングの展開-』同文館出版

【参考文献】

商業簿記 I

担当教員 鶴池 幸雄

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

ビジネスの基礎として、企業の日常的活動を認識、測定、記録、報告を行う会計システムについての基礎的な理解を涵養する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	簿記の基礎	17	売掛金・買掛金の記帳
2	資産・負債・資本と貸借対照表	18	その他債権債務①
3	収益・費用と損益計算書	19	その他債権債務②
4	取引と勘定科目	20	手形取引①
5	取引要素の結合関係	21	手形取引②
6	仕訳①	22	手形取引③
7	仕訳②	23	有価証券
8	勘定口座と元帳	24	固定資産と減価償却
9	試算表	25	資本金と引出金
10	精算表	26	決算整理①
11	決算	27	決算整理②
12	現金・当座預金	28	決算整理③
13	小口現金	29	決算整理④
14	商品売買の記帳①	30	試験 I
15	商品売買の記帳②	31	試験 II
16	商品売買の記帳③		

【履修上の注意事項】

簿記による企業の記録は、ビジネスのツールとして非常に重要であるため、これを間違いなく行うことが出来るように、復習を必ず行いマスターしてください。

【評価方法】

小テスト、総合試験の点数に基づいて評価します。

【テキスト】

開講時に指示します。

【参考文献】

商業簿記 I

担当教員 清村 英之

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

会社の活動を記録し、計算・整理する技術を簿記といいます。簿記を行うことによって、会社は自己の財産を管理し、経営成績（いくらもうかったか）と財政状態（財産や借金がいくらあるか）を知ることができます。

この講義では、取引の仕訳から元帳への転記、試算表・精算表・財務諸表の作成にいたる簿記一巡の手続を解説します。簿記を十分に理解するためには、数多くの練習問題を解くことが必要です。したがって、テキストやプリントの練習問題を中心に講義を進めます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス	17	売掛金と買掛金
2	企業の簿記	18	手形
3	資産・負債・純資産と貸借対照表	19	手形
4	収益・費用と損益計算書	20	その他の債権・債務
5	取引と勘定	21	有価証券
6	仕訳と転記	22	有価証券
7	仕訳と転記	23	固定資産
8	試算表	24	固定資産
9	精算表	25	資本金と引出金
10	決算（その1）	26	決算（その2）
11	決算（その1）	27	決算（その2）
12	財務諸表の作成	28	決算（その2）
13	現金と預金	29	決算（その2）
14	現金と預金	30	決算（その2）
15	商品売買	31	期末テスト
16	商品売買		

【履修上の注意事項】

初回講義に欠席した場合、登録を取り消すこともあります（2年次以上）。

【評価方法】

出席20%，テスト80%で評価します。

【テキスト】

清村英之『簿記が基礎からわかる本－中級レベルまで』同文館出版。

【参考文献】

渡部裕亘他『新検定簿記ワークブック 3級／商業簿記』中央経済社。

商業簿記 I

担当教員 大城 建夫

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4

【授業のねらい】

簿記の知識は、個人及び法人企業、公益法人、官公庁等に広く活用され、国内外にも共通するものです。この講義は、簿記初学者が簿記の「基本概念」、「計算原理」、「作成技術」などを習得することを目的としています。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	簿記の意義と役割	17	その他の債権・債務
2	資産・負債・資本と貸借対照表	18	手形取引
3	収益・費用と損益計算書	19	手形取引
4	学習簿記と簿記一巡の流れ	20	有価証券
5	複式簿記の原理と勘定科目論	21	有価証券
6	仕訳帳と元帳の記入と役割	22	固定資産
7	仕訳帳と元帳の記入と役割	23	固定資産
8	試算表と精算表の作成と役割	24	個人企業の資本と税金
9	試算表と精算表の作成と役割	25	決算予備手続き
10	決算	26	決算予備手続き
11	決算	27	決算手続き等
12	現金・預金の取引	28	決算手続き等
13	現金・預金の取引	29	決算手続き等
14	商品売買取引	30	総まとめ
15	商品売買取引	31	期末テスト
16	その他の債権・債務		

【履修上の注意事項】

講義と練習問題を交互に行うため、下記テキストとワークブックを必ず購入すること。

日商簿記3級程度の実力を養成できる講義でもあるため、受講生は、単位取得だけでなく、資格取得も目標にしてみたい。

【評価方法】

出席状況、期末試験、学生の質問内容、簿記検定合格等で総合評価

【テキスト】

上江洲・大城編著『簿記の技法とシステム』同文館出版
段階式日商簿記ワークブック3級商業簿記、税務経理協会

【参考文献】

武田隆二『簿記一般教程』中央経済社

商業簿記Ⅱ

担当教員 清村 英之

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

この講義では、「商業簿記Ⅰ」で学んだ簿記の基礎を踏まえ、特殊商品売買、株式会社の会計、本支店会計など、一歩進んだ簿記の手続を解説します。簿記を十分に理解するためには、数多くの練習問題を解くことが必要です。したがって、テキストやプリントの練習問題を中心に講義を進めます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス	17	決算
2	諸取引の処理：銀行勘定調整表	18	決算
3	諸取引の処理：特殊商品売買	19	決算
4	諸取引の処理：特殊商品売買	20	財務諸表の作成
5	諸取引の処理：有価証券	21	財務諸表の作成
6	諸取引の処理：手形	22	財務諸表の作成
7	諸取引の処理：手形	23	財務諸表の作成
8	諸取引の処理：有形固定資産	24	本支店会計：本支店間取引
9	諸取引の処理：無形固定資産	25	本支店会計：本支店間取引
10	株式会社の会計：繰延資産	26	本支店会計：合併財務諸表の作成
11	株式会社の会計：純資産	27	本支店会計：合併財務諸表の作成
12	株式会社の会計：合併・買収	28	本支店会計：合併財務諸表の作成
13	株式会社の会計：剰余金の配当と処分	29	本支店会計：合併財務諸表の作成
14	株式会社の会計：社債	30	本支店会計：合併財務諸表の作成
15	株式会社の会計：社債	31	期末テスト
16	株式会社の会計：税金		

【履修上の注意事項】

- ① 「商業簿記Ⅱ」を履修済みの学生しか登録できません。
- ② 初回講義に欠席した場合、登録を取り消すこともあります。

【評価方法】

出席20%，テスト80%で評価します。

【テキスト】

清村英之『簿記が基礎からわかる本—中級レベルまで』同文館出版。

【参考文献】

渡部裕亘他『新検定ワークブック 2級／商業簿記』中央経済社。

商業簿記Ⅱ

担当教員 -上原 香代子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は、商業簿記Ⅰで基礎的な簿記システムを理解した学生を対象にしています。商業簿記Ⅱでは、株式会社の取引を中心に応用的な簿記の技術を学び、会社法の計算規定なども併せて学習します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス	17	中間テスト
2	現預金の処理	18	社債の処理
3	有価証券の処理	19	株式会社の税金
4	債権債務の処理	20	本支店取引
5	手形取引の処理	21	本支店取引 2
6	手形取引の処理 2	22	本支店取引 3
7	商品売買取引の処理	23	本支店取引 4・決算整理等
8	商品売買取引の処理 2	24	伝票・帳簿
9	商品売買取引の処理 3	25	帳簿等（特殊仕訳帳）
10	有形固定資産等	26	精算表の作成
11	無形固定資産・繰延資産・引当金	27	精算表の作成 2
12	株式会社の設立等	28	財務諸表の作成
13	結合会計	29	財務諸表の作成 2
14	剰余金の処理	30	財務諸表の作成 3・総まとめ
15	剰余金の処理 2	31	期末テスト
16	中間まとめ・復讐問題		

【履修上の注意事項】

商業簿記Ⅰの知識を前提とするのでよく復習しておいてください。

【評価方法】

試験等による理解の到達度及び出席状況等によって評価します。

【テキスト】

テキスト：開講時に指示します。

問題集：『段階式日商簿記ワークブック 2級商業簿記』税務経理協会

【参考文献】

上江洲由正、大城建夫編著『簿記の技術とシステム』同文館出版

清村英之『簿記の基礎からわかる本—中級レベルまで』同文館出版

商業簿記Ⅱ

担当教員 松村 陽子

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4

【授業のねらい】

本講義では商業簿記Ⅰの履修を終了した学生に対し、中級程度の商業簿記の学習をするものである。応用的な取引の処理や株式会社の簿記などについて理解させることを目的とする。株式会社の簿記は、会社法の計算規定などとの関わりも理解しながら学んでいくことが重要である。日商簿記検定などの目標を持って、自覚して受講してもらいたい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	現金預金取引
2	有価証券の特殊取引その1
3	有価証券の特殊取引その2
4	特殊な手形取引その1
5	特殊な手形取引その2
6	特殊商品売買その1
7	特殊商品売買その2
8	固定資産その1
9	固定資産その2
10	中間試験
11	株式会社の簿記の特徴, 純資産の部と表示
12	株式会社の設立・増資
13	株式会社の合併
14	社債
15	株式会社の税金
16	期末試験

【履修上の注意事項】

具体的には、講義と問題練習を繰り返して理解させたい。テキストとして使用する問題集以外にも数多くの問題を解くのが簿記上達の秘訣なので、各自で問題集を入手し解くなど積極的な取り組みを期待したい。受講生諸君は、日商簿記2級等の資格取得にも目標を持ってもらいたい。

【評価方法】

出席状況、授業への参加姿勢、試験の結果などを総合して判断する。

【テキスト】

上江洲、大城編著「簿記の技法とシステム」 同文館発行
段階式日商簿記ワークブック2級商業簿記 税務経理協会発行

【参考文献】

武田隆二「簿記Ⅱ」税務経理協会
山下正喜編著「簿記テキスト」創成社

消費者行動演習

担当教員 小原 満春

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義では、消費者行動の身近な具体的事例（ケーススタディ）を用いて問題や疑問を課題としてあげ、「消費者はなぜそれを選ぶのか？」「消費者はなぜそのように行動するのか？」など消費者行動の理論を用いて考察し、解明します。そしてその考察、解明した内容を発表し、講義の参加者全員と討論します。消費者行動の身近な疑問を調べ、発表し、討論することで消費者行動をより深く理解することを目的とします。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	プロジェクトの進め方・・・（1）
3	プロジェクトの進め方・・・（2）
4	プロジェクトの発表と討論・・・（1）
5	プロジェクトの発表と討論・・・（2）
6	プロジェクトの発表と討論・・・（3）
7	プロジェクトの発表と討論・・・（4）
8	プロジェクトの発表と討論・・・（5）
9	プロジェクトの発表と討論・・・（6）
10	プロジェクトの発表と討論・・・（7）
11	プロジェクトの発表と討論・・・（8）
12	プロジェクトの発表と討論・・・（9）
13	プロジェクトの発表と討論・・・（10）
14	プロジェクトの発表と討論・・・（11）
15	プロジェクトの発表と討論・・・（12）
16	まとめとレポート提出

【履修上の注意事項】

（1）本講義は後期の消費者行動概論と連続したプログラムを組んでいます。理論を学び演習で実習プロジェクトを行うので前期の「消費者行動概論」とセットで登録する事が望ましい。

（2）授業に出席を重視します。積極的に学ぶ姿勢が必要です。進んで発言し議論に参加すること。

（3）授業中の携帯電話、私語、飲食など他の学生に迷惑になる行為は厳に慎むこと。場合によっては退出させます。

【評価方法】

発表・レポート50% 出席・議論への参加と発言50% 他 総合的に判断する。

【テキスト】

必要に応じて講義中に紹介します。

【参考文献】

杉本徹雄編（1997）『消費者理解のための心理学』福村出版、清水聰（1999）『新しい消費者行動』千倉書房
 平久保伸人（2005）『消費者行動論』ダイヤモンド社 田中洋（2008）『消費者行動論体系』中央経済社

消費者行動概論

担当教員 小原 満春

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

消費者が商品やサービスを購入する時に、なにを基準に商品を選んでいるのでしょうか。それは消費者が所属している集団や、家庭環境などの外的要因と、経験や知識、好きや嫌いなどの内面的な要因が影響し合った結果、商品を選び購入していると考えられています。本講義では、購買に至る要因を消費者行動研究を踏まえ学びます。消費者行動を学ぶことにより、効果的なマーケティングとは何かについて考察する力を養うことを目的とします。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	消費者行動とは
3	消費者の問題認識と購買意思決定
4	消費者の情報探索と選択肢の評価
5	購買決定後の過程
6	消費者の知覚
7	消費者の学習
8	消費者の欲求と動機
9	消費者の態度形成と変容
10	消費者の関与
11	消費者の個人特性
12	消費者行動における状況要因
13	対人・集団の要因と消費者行動
14	文化的要因と消費者行動
15	まとめ
16	学期末試験

【履修上の注意事項】

- (1) 本講義は後期の消費者行動演習と連続したプログラムを組んでいます。理論を学び演習で実習プロジェクトを行うので後期の「消費者行動演習」とセットで登録する事が望ましい。
- (2) 授業に出席を重視します。積極的に学ぶ姿勢が必要になります。
- (3) 授業中の携帯電話、私語、飲食など他の学生に迷惑になる行為は厳に慎むこと。場合によっては退出させます。

【評価方法】

期末考査 60% 課題提出 30% 出席・受講態度 10% を踏まえた上で総合的に評価します。

【テキスト】

杉本徹雄 (1997) 『消費者理解のための心理学』

【参考文献】

- 清水聰 (1999) 『新しい消費者行動』 千倉書房
 平久保仲人 (2005) 『消費者行動論』 ダイアモンド社
 田中洋 (2008) 『消費者行動論体系』 中央経済社

情報概論

担当教員 一名 嘉村 盛和

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

情報リテラシー演習

担当教員 仲地 健

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

情報リテラシーとは、コンピュータを使った「読み・書き」などができる能力といわれている。情報化社会においては、単にコンピュータが使えるのではなく、目的に応じて柔軟に対応できることが必要となる。本講義では、ワープロ・表計算・プレゼンテーションソフトウェアの技能を身につけた者を対象として、ウェブサイト作成（HTML）を学ぶ。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	HTMLの基礎
3	文字のデザイン・カラーコード
4	リンク
5	スタイルシート
6	画像の加工方法
7	テーブル
8	フォーム
9	フレーム
10	ギャラリーページ
11	タグ以外のテクニック①
12	タグ以外のテクニック②
13	課題の実習①
14	課題の実習②
15	課題のプレゼンテーション
16	総括

【履修上の注意事項】

情報処理基礎（共通科目）を履修済みの者、もしくはそれと同等の技能を持つと認められた者にかぎり登録を受け付ける（同時履修は認めない）。

【評価方法】

課題・出席状況を総合的に判断し評価する。

【テキスト】

開講時に指定する。

【参考文献】

開講時に指定する。

人的資源管理論 I

担当教員 岩橋 建治

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

企業において「ひと」は、重要な資源のひとつである。ひとはなぜ働くのか。どうすれば目標を見いだし努力するようになるのか。これらの問題について、働く環境が近年どのように変化しつつあるのかを踏まえた上で、検討していく。授業では、今日の人的資源管理（人事管理・労務管理）において見られる、さまざまなヒューマングループをとりあげ、そこでの問題を明らかにしていく。さらに、人的資源管理の諸制度とその動向を学ぶことで、従業員たちがよりよく働けるようになるための考え方の枠組を探求していく。

【授業の展開計画】

1. 人的資源管理（人事管理・労務管理）とは
2. 職務と組織の設計
 - (1) 職務設計
 - (2) 組織設計
3. ヒューマングループと人的資源管理
 - (1) 女性労働者
 - (2) 非正規労働者
 - (3) 高齢労働者
 - (4) 技術者
4. 人的資源管理制度とその変化
 - (1) 雇用管理
 - (2) 労使関係
 - (3) ワーク・ライフ・バランス

【履修上の注意事項】

なぜ働くのかについて、意識を高めて欲しい。

【評価方法】

期末試験（80%）、中間レポート（20%）

【テキスト】

奥林康司 編著（2010）『入門 人的資源管理 第2版』中央経済社。
加えて、適宜プリント配布。

【参考文献】

適宜紹介する。

人的資源管理論Ⅱ

担当教員 岩橋 建治

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

組織のなかの人間行動への理解を深める。人的資源管理（人事管理・労務管理）の諸制度とその動向を検討したうえで、職場における「ひと」の働きに関する諸理論を学ぶ。人間関係はなぜ重要なのか、どうすれば働く気になるのか、効果的なリーダーシップとはどのようなものか、人々を統合する企業理念とはいかなるものか、個人と組織との一体化にはどのような長所と短所があるのか、そして組織への愛着と誇りはいかにして生まれるのか、などのような問いについて考えていく。

【授業の展開計画】

1. 人的資源管理制度とその変化
 - (1) 賃金
 - (2) 昇進管理
 - (3) キャリアと人材育成
2. 職場におけるひとの働き
 - (1) 働く動機づけ（モチベーション）
 - (2) リーダーシップ
 - (3) 組織文化・企業理念
 - (4) 組織学習
 - (5) チームワーク

【履修上の注意事項】

「ひと」を扱う研究の性質上、心理学・社会学の理論も多用される。

【評価方法】

期末試験（80%）、中間レポート（20%）

【テキスト】

奥林康司 編著（2010）『入門 人的資源管理 第2版』中央経済社。
加えて、適宜プリント配布。

【参考文献】

適宜紹介する。

専門演習 I

担当教員 木村 眞実

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

専門演習 I・IIを通じて、原価計算の計算技法だけを丸暗記するような勉強ではなく、原価計算を勉強するための理論的枠組を理解することを目的とします。

原価計算の計算技法は、原価計算の目的に依存しています。つまり、企業経営者の直面する課題によって、原価計算の計算技法（たとえば、標準原価計算なのか、実際全部原価計算なのか…）が決まります。「異なる目的には、異なる原価を」という言葉があり、この言葉が意味するところを、一緒に学んでいきます。

【授業の展開計画】

【前期：専門演習 I】

考える力を養うために「クリティカル・シンキング (Critical Thinking)」について学習します。これにより、論理的な思考を身に着け、他者へ自分の意見を論理立てて説明することができるようになればと考えています。

具体的には、まずクリティカル・シンキングに関するテキストを輪読してこの手法を理解します。次に、グループディスカッションを通じて、スキルの実習をします。

なお、輪読では、各章の担当者を事前に決めます。担当者は、その章の内容を簡潔にまとめたレジュメを作成し、章の内容について説明をします。

【後期：専門演習 II】

いよいよ本題の原価計算について学びます。テキスト（岡本清著『原価計算』）を輪読します。そして、皆でテキストの内容について議論をします。この時に役立つのが「クリティカル・シンキング」です。

【通年】

- ・班を作り、班単位で行動します。班には班長・副班長・会計・庶務系の役職があります。
- ・以下の学外ゼミも予定をしています。
 - ①企業見学：年2か所以上を見学予定。
班別に訪問先の企業情報を調べる→訪問前に質問事項を用意→見学→知見を報告書で報告
 - ②全国大学対抗簿記大会：11月、団体戦・個人戦で参加予定。
 - ③簿記勉強会：検定試験1～2ヶ月前から週3回/1回3時間を予定。
 - ④合宿：検定試験1ヶ月前に2泊3日@セミナーハウスで開催予定。簿記3・2級、11・6月。

【履修上の注意事項】

手を抜かない人を希望します。ゼミは団体行動です。1人が手を抜けば、他のゼミ生のやる気に影響します。適当な団体行動ほどツマラナイものはありません。

よって、勉強は苦手でも、手を抜かないで一生懸命する人を希望します。

なお、お食事会・レクリエーションも行います。これらにも必ず参加してください。

【評価方法】

参加意識と報告で評価をします。

【テキスト】

適宜、指定をします。

【参考文献】

専門演習 I

担当教員 仲地 健

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

専門演習 I・IIを通じて、「学生が考える座間味村の島おこし案」を作成します。

【授業の展開計画】

次の5つのテーマを調べるグループを作り、それぞれのテーマについて報告・討論を行う。

- ・座間味村の現状と課題
- ・沖縄観光の現状と課題
- ・島おこしの事例
- ・村おこしの事例
- ・島民・観光客へのアンケート作成

【履修上の注意事項】

【評価方法】

課題の報告内容、演習への貢献度などで総合的に評価する。

【テキスト】

【参考文献】

専門演習 I

担当教員 岩橋 建治

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

人的資源管理を中心とした、経営学に関するテキストの輪読、報告、および討論を行う。受講生は、ゼミでの学習をふまえて、後期ゼミ開始までに個々の卒業論文のおおまかなテーマを決定する。

【授業の展開計画】

(4月) 前期研究テーマの選択。それをもとに、報告のための課題文献の割り振り。

(4月～7月) Power PointまたはKeynoteを使った報告と討論。報告後、卒業論文作成にむけてのレポートと参考文献リストを作成・提出。

(夏休み) 卒業論文のための中間報告資料を作成(4000字程度)。中間報告は後期に行う。

参考として、13年度受講生が扱ったテーマは以下のとおり。

リーダーシップ、チームワーク、モチベーション、コミュニケーション、人材育成、キャリア、非正規労働、女性労働者、ワークライフバランス、ドラッカー、経営戦略、グローバル戦略、ベンチャー、顧客満足、観光業、ホテル業、アパレル業、ユニクロ、飲食業、球団経営、映画産業、地域ブランド、ICT、ビッグデータ、など。

【履修上の注意事項】

積極的な発言を求める。

【評価方法】

出席、演習への貢献度、および課題の完成度などにより総合的に評価する。

【テキスト】

受講生の意向を聞きながら決定する。13年度は、P. F. ドラッカー(2001)『マネジメント [エッセンシャル版]』ダイヤモンド社、大滝精一ほか(2006)『経営戦略 [新版] 論理性・創造性・社会性の迫及』有斐閣アルマ、奥林康司ほか編(2010)『入門 人的資源管理 第2版』中央経済社、などを使用。

【参考文献】

適宜紹介する。

専門演習 I

担当教員 河田 賢一

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

当演習では4年次の卒業論文執筆に向けての流通に関する知識取得のために専門書の輪読をおこないます。専門書の輪読を通して「読む力」を取得し、レジュメ作成・報告による「書く力」と「話す力」の取得、討論による「話す力」と「聴く力」の取得を目指します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	報告・討論
3	報告・討論
4	報告・討論
5	報告・討論
6	報告・討論
7	報告・討論
8	報告・討論
9	報告・討論
10	報告・討論
11	報告・討論
12	報告・討論
13	報告・討論
14	報告・討論
15	報告・討論
16	演習のまとめ

【履修上の注意事項】

演習であるため、毎回、積極的な発言を求めます。討論における司会は学生自身におこなってもらいます。

学内規則を守らない場合には、即座に単位『不可』となります。

卒業論文執筆時に企業の決算情報を分析する必要があるため、「会計学Ⅰ」・「中小企業診断Ⅰ」・「財務会計Ⅰ」・「経営分析」のどれかを必ず履修すること。

【評価方法】

出席点・受講態度（45%）、報告・司会（45%）、ゼミ行事への参加（10%）

【テキスト】

石原武政・竹村正明編（2008）『1からの流通論』碩学舎

【参考文献】

専門演習 I

担当教員 清村 英之

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この演習では、「使える会計知識」「役に立つ会計技法」を身につけることを目指して、会計が現代の経済社会の中でどのような役割を果たしているのか、会計の知識を得ることで何ができるのかを学びます。ただし、会計データの使い方を学ぶためには、その作り方を知らなければならないので、この一年間は会計データの作り方に重点をおきます。

また、ゼミ4年生やOB・OG（卒業生）との交流によって、就職への意識を高めていきます。

【授業の展開計画】

まず、①3～4人のグループを作り、グループで分析する業界と個人で分析する企業を選択します。次に、②インターネット等を利用して企業情報（特に会計情報）を収集し、様々な手法を用いてこれを分析し、その結果を発表します。なお、「授業のねらい」にも書いたように、この一年間は会計データの作り方の学習に重点を置くので、③資産会計、負債会計、純資産会計、損益会計などのテーマを各グループに割り振り、その発表と討論を通じ、会計学（財務会計）の理解を深めます。

【履修上の注意事項】

次のような学生を希望します。

- ① 遅刻や欠席をしない人。
- ② ゼミの時間に積極的に発言できる人。
- ③ ゼミの行事を優先し、ゼミ会、ゼミ合宿、学祭などに参加できる人。

【評価方法】

出席や発表などで、総合的に評価します。

【テキスト】

使用しません。

【参考文献】

必要に応じ、講義中に紹介します。

専門演習 I

担当教員 宮森 正樹

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

マーケティングおよび広告全般から沖縄社会を総合的に考察する為の基礎力を身につける。専門書の読み方、マーケティング的文章の書き方、人前でのプレゼンテーションの仕方、情報収集の方法など、演習2につながるものを学ぶ。また、各自がテキストを深く読み込んで理論を整理し、ゼミ授業の中でみんなに解説してもらう。このゼミでは、基本的に実践的活動を目指しているため、一人ひとりが実社会に飛び出して多くの人と会い、いろいろな事を学んでもらいたい。後期から始まる合同企業プロジェクトの準備もおこなう。ファミリーマートの学Pも大学を代表して参加する。実践的マーケティングを学ぶことを重視する。

【授業の展開計画】

- 1・2週目 演習の進め方オリエンテーション
- 3・4週目 担当箇所のプレゼンテーション(1)
- 5・6週目 担当箇所のプレゼンテーション(2)
- 7・8週目 担当箇所のプレゼンテーション(3)
- 9・10週目 担当箇所のプレゼンテーション(4)
- 11・12週目 担当箇所のプレゼンテーション(5)
- 13・14週目 担当箇所のプレゼンテーション(6)

【履修上の注意事項】

- (1) 出席を重視する。
- (2) 事前にテキストを読んてくること。
- (3) 提出物を〆切を過ぎて出した者は減点、あるいは点数無し。
- (4) 授業中のおしゃべりは、他の学生の迷惑となるので教室より退出してもらう。
- (5) マーケティング入門を履修した者のみ受け付ける。

【評価方法】

出席 (15%) , 発表 (20%) , レポート (20%) , 論文 (40%) , 質問回数 (5%) 等で総合的に評価する。

【テキスト】

テキストは最初の授業で指定します。

【参考文献】

- ①現代マーケティングの構図：嵯峨野書院
- ②コトラーのマーケティング思考法：東洋経済

専門演習 I

担当教員 天野 敦央

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

年間テーマを、「経営管理論」とする。

本演習は3年次前期科目 2.00単位、3年次後期科目2.00単位、合計4.00単位からなっている。経営学の基本的概念を性格に理解するために、毎回テーマを決めて討論する。このほかに、各自がそれぞれ好きなテーマ（経営学の諸分野の中から）と好きな地域を決めて、その地域の経営の実状についてくわしく調べる。なお本演習イベント（合宿・学園祭・コンパ）への、ゼミ生諸君の積極的な関与を期待する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	演習のすすめ方、評価のしかた
2	研究対象
3	研究対象
4	アメリカ経営学
5	(ゼミ合宿)
6	ドイツ経営学
7	ドイツ経営学
8	企業論
9	企業論
10	経営管理
11	経営管理
12	意思決定
13	意思決定
14	経営戦略
15	経営戦略
16	

【履修上の注意事項】

報告（レポート発表）当日の発表者欠席は、みとめない。ゼミ提示板（第5314番教室前）の連絡事項に留意すること。

【評価方法】

提出のレポートの評定に、平常点を加味し、最終的な評価を決定する。

【テキスト】

未定

【参考文献】

古在由重（編）『哲学小辞典』岩波書店。小川英次ほか（編）『経営学の基礎知識』有斐閣。
日録刊行会（編）『経営図書総目録2012』東販。

専門演習 I

担当教員 鶴池 幸雄

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

選択したテキストから、財務諸表の重要性を認識し、それを利用することについての基礎学習を行った後、具体例について研究報告を行うことにより、応用力を養う。

【授業の展開計画】

選択したテキストから、ゼミ生にレジュメを作成し発表してもらい、それを討論する形で進める。
企業会計全体についての理解を深めるために財務会計の文献を中心に学習する。
同時に、資金繰りについて、パソコンを使った講義を行い、基礎的考察から、事例研究までを行い、応用事例について、報告を行わせる

【履修上の注意事項】

2年次までの会計科目を履修済みであること
3年次開講の「財務会計 I」を受講すること

【評価方法】

授業への参加姿勢、レポート等を総合的に評価する。

【テキスト】

講義時に指示する

【参考文献】

専門演習 I

担当教員 佐久本 朝一

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

経営学に関するテーマを選択してもらい、各自で発表してもらい、その内容を評価する。

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

議論に参加することが重要なので、出席を毎回確認する。

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

能力主義管理の国際比較 佐久本朝一

専門演習Ⅱ

担当教員 木村 眞実

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

専門演習Ⅰ・Ⅱを通じて、原価計算の計算技法だけを丸暗記するような勉強ではなく、原価計算を勉強するための理論的枠組を理解することを目的とします。

原価計算の計算技法は、原価計算の目的に依存しています。つまり、企業経営者の直面する課題によって、原価計算の計算技法（たとえば、標準原価計算なのか、実際全部原価計算なのか…）が決まります。「異なる目的には、異なる原価を」という言葉があり、この言葉が意味するところを、一緒に学んでいきます。

【授業の展開計画】

【前期：専門演習Ⅰ】

考える力を養うために「クリティカル・シンキング (Critical Thinking)」について学習します。これにより、論理的な思考を身に着け、他者へ自分の意見を論理立てて説明することができるようになればと考えています。

具体的には、まずクリティカル・シンキングに関するテキストを輪読してこの手法を理解します。次に、グループディスカッションを通じて、スキルの実習をします。

なお、輪読では、各章の担当者を事前に決めます。担当者は、その章の内容を簡潔にまとめたレジュメを作成し、章の内容について説明をします。

【後期：専門演習Ⅱ】

いよいよ本題の原価計算について学びます。テキスト（岡本清著『原価計算』）を輪読します。そして、皆でテキストの内容について議論をします。この時に役立つのが「クリティカル・シンキング」です。

【通年】

- ・班を作り、班単位で行動します。班には班長・副班長・会計・庶務系の役職があります。
- ・以下、学外ゼミも予定をしています。
 - ①企業見学：年2か所以上を見学予定。
班別に訪問先の企業情報を調べる→訪問前に質問事項を用意→見学→知見を報告書で報告
 - ②全国大学対抗簿記大会：11月、団体戦・個人戦で参加予定。
 - ③簿記勉強会：検定試験1～2ヶ月前から週3回/1回3時間を予定。
 - ④合宿：検定試験1ヶ月前に2泊3日@セミナーハウスで開催予定。簿記3・2級、11・6月。

【履修上の注意事項】

手を抜かない人を希望します。ゼミは団体行動です。1人が手を抜けば、他のゼミ生のやる気に影響します。適当な団体行動ほどツマラナイものはありません。

よって、勉強は苦手でも、手を抜かないで一生懸命する人を希望します。

なお、お食事会・レクリエーションも行います。これらにも必ず参加してください。

【評価方法】

参加意識と報告で評価をします。

【テキスト】

適宜、指定をします。

【参考文献】

専門演習Ⅱ

担当教員 河田 賢一

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

当演習では4年次の卒業論文執筆に向けての流通に関する知識取得のために専門書の輪読をおこないます。専門書の輪読を通して「読む力」を取得し、レジュメ作成・報告による「書く力」と「話す力」の取得、討論による「話す力」と「聴く力」の取得を目指します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	報告・討論
3	報告・討論
4	報告・討論
5	報告・討論
6	報告・討論
7	報告・討論
8	報告・討論
9	報告・討論
10	報告・討論
11	報告・討論
12	報告・討論
13	報告・討論
14	報告・討論
15	報告・討論
16	演習のまとめ

【履修上の注意事項】

演習であるため、毎回、積極的な発言を求めます。討論における司会は学生自身におこなってもらいます。学内規則を守らない場合には、即座に単位『不可』となります。

【評価方法】

出席点・受講態度（45%）、報告・司会（45%）、ゼミ行事への参加（10%）

【テキスト】

話し合いにより決定します。

【参考文献】

専門演習Ⅱ

担当教員 岩橋 建治

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

人的資源管理を中心とした、経営学に関する個々の卒業論文について、中間報告を行う。報告と討論をもとに内容を修正し、具体的な方向性を決めていく。

研究を通じて、自分自身が何を望んでいるのか（自己分析）、その研究を深めることで誰にどのような貢献ができるのか（社会における役割）を、納得のいくまで考えて欲しい。

【授業の展開計画】

卒業論文の中間報告と討論を毎回行い、そのつど今後の課題（イシュー、文献、事例など）を提示する。

参考として、13年度受講生が扱ったテーマは以下のとおり。

リーダーシップ、チームワーク、モチベーション、コミュニケーション、人材育成、キャリア、非正規労働、女性労働者、ワークライフバランス、ドラッカー、経営戦略、グローバル戦略、ベンチャー、顧客満足、観光業、ホテル業、アパレル業、ユニクロ、飲食業、球団経営、映画産業、地域ブランド、ICT、ビッグデータ、など。

【履修上の注意事項】

積極的な発言を求める。

【評価方法】

出席、演習への貢献度、および課題の完成度などにより総合的に評価する。

【テキスト】

なし。

【参考文献】

適宜紹介する。

専門演習Ⅱ

担当教員 清村 英之

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
専門演習Ⅰに同じ。

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

専門演習Ⅱ

担当教員 天野 敦央

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

年間テーマを、「経営管理論」とする。

本演習は3年次前期科目 2.00単位、3年次後期科目2.00単位、合計4.00単位からなっている。経営学の基本的概念を性格に理解するために、毎回テーマを決めて討論する。このほかに、各自がそれぞれ好きなテーマ（経営学の諸分野の中から）と好きな地域を決めて、その地域の経営の実状についてくわしく調べる。なお本演習イベント（合宿・学園祭・コンパ）への、ゼミ生諸君の積極的な関与を期待する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	経営組織
2	経営組織
3	労務管理
4	卒業年次ゼミテーマ登録カード提出
5	財務管理
6	財務管理
7	販売管理
8	販売管理
9	計画と統制
10	（就職課進路面接）
11	いわゆる「日本的経営」
12	後期末：ゼミ年報記事の提出締切り
13	企業の社会的責任
14	新ゼミ生募集計画
15	予備日
16	

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

専門演習Ⅱ

担当教員 鶴池 幸雄

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

選択したテキストから、財務諸表の重要性を認識し、それを利用することについての基礎学習を行った後、具体例について研究報告を行うことにより、応用力を養う。

【授業の展開計画】

選択したテキストから、ゼミ生にレジュメを作成し発表してもらい、それを討論する形で進める。企業会計全体についての理解を深めるために財務会計の文献だけでなく、基本的な管理会計の分野についても学習する。同時に、経営分析について、パソコンを使った講義を行い、基礎的考察から、事例研究までを行い、応用事例について、報告を行わせる。

【履修上の注意事項】

財務会計Ⅱ、資金会計を受講すること

【評価方法】

授業への参加姿勢、レポート等を総合的に評価する。

【テキスト】

講義時に指示する

【参考文献】

専門演習Ⅱ

担当教員 宮森 正樹

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

マーケティング及び広告全般から沖縄社会を総合的に考察する。県内市場をターゲットにして、プロジェクトの実施を行い、勉学の深化と共に、社会との関わりを学ぶ。プロジェクトテーマの選択は各自、あるいは各グループに任せる。テーマの例(一昨年度)として、粟国島に飛行機を飛ばしている第一航空といかに乗客を増やすかの戦略を一緒に作ったり、美ら花という化粧品メーカーと新製品開発をしたり、沖縄市ミュージックタウンでの米国人と沖縄の人の結婚式をプロデュースしたり、琉球コラソンというハンドボールチームの試合に多くの観客を呼ぶ為の広報戦略をつくったり、ファミリーマートの学Pで弁当をプロデュースしたりした。

【授業の展開計画】

- 1・2 週目 論文の中間発表(1)
- 3・4 週目 論文の中間発表(2)
- 5・6 週目 合同プロジェクト進行(1)
- 7・8 週目 合同プロジェクト進行(2)
- 9・10 週目 合同プロジェクト進行(3)
- 11・12週目 担当箇所のプレゼンテーション
- 13・14週目 最終論文発表

【履修上の注意事項】

- (1) 出席を重視する。
- (2) 事前にテキストを読んてくること。
- (3) 提出物を〆切を過ぎて出した者は減点、あるいは点数無し。
- (4) 授業中のおしゃべりは、他の学生の迷惑となるので教室より退出してもらおう。
- (5) マーケティング入門を履修した者のみ受け付ける。

【評価方法】

出席(15%)、発表(20%)、レポート(20%)、論文(40%)、質問回数(5%)等で総合的に評価する。

【テキスト】

前期に指定したものをを用いる。

【参考文献】

- ①現代マーケティングの構図：嵯峨野書院
- ②コトラーのマーケティング思考法：東洋経済

専門演習Ⅱ

担当教員 佐久本 朝一

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

専門演習Ⅱ

担当教員 仲地 健

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

専門演習Ⅰに同じ。

【授業の展開計画】

専門演習Ⅰの報告・討論およびアンケート結果に基づき、「座間味村の島おこし案」を作成する。

【履修上の注意事項】

【評価方法】

課題の報告内容、演習への貢献度などで総合的に評価する。

【テキスト】

【参考文献】

戦略管理会計

担当教員 木村 眞実

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

業績管理会計と戦略管理会計の授業を通じて、基本の管理会計システムを学習することを目的とします。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	第8章 利益計画
3	つづき
4	第9章 予算管理
5	つづき
6	第10章 事業部の業績管理
7	つづき
8	第11章 ABC/ABM
9	つづき
10	第12章 バランス・スコアカード
11	つづき
12	第13章 原価企画
13	つづき
14	第14章 ミニ・プロフィットセンター
15	つづき
16	試験

【履修上の注意事項】

工業簿記Ⅰを履修済み、または原価計算Ⅰを履修済み、または日商簿記検定試験2級レベルの知識があるほうが望ましいです。

【評価方法】

定期試験70%、平常点（小テスト・宿題等）30%

【テキスト】

谷武幸著『エッセンシャル管理会計（第2版）』中央経済社

【参考文献】

セールス・プロモーション

担当教員 宮森 正樹

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

税法

担当教員 大城 建夫

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考 会計コース

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義では、税法の基礎的内容を修得させることを目標とする。税法の領域は、所得税法、法人税法、相続税法、消費税法など広範囲に及ぶ。この講義では、法人税法を中心にとりあげる。法人税を算出するための課税所得計算の特色は、企業会計の利益計算から誘導されるところにある。そのため、商業簿記、会計学等で学んだことを比較しながら講義を進めていく。

【授業の展開計画】

1. 税制と税法の基礎概念
2. 個別税法の体系と税法の基本原則
3. 所得税法の課税所得計算の構造
4. 法人税法の課税所得計算の構造
5. 益金の意義と範囲 (1)
6. 益金の意義と範囲 (2)
7. 損金の意義と範囲 (1)
8. 損金の意義と範囲 (2)
9. 益金と損金のまとめ
10. 役員給与と損金 (1)
11. 役員給与と損金 (2)
12. 交際費と損金 (1)
13. 交際費と損金 (2)
14. その他の販管費と損金 (1)
15. その他の販管費と損金 (2)
16. 期末テスト

【履修上の注意事項】

税法では、法人税法の基礎理論の講義を中心に行う。簿記、会計学の学習は、この講義を具体的に理解するためにも重要である。そのため、税法を受講するには、商業簿記Ⅰ、Ⅱ、会計学Ⅰ、Ⅱを履修していることが望ましい。

【評価方法】

成績評価の方法は、出席状況、中間テスト、期末試験などの内容を総合して判断する。

【テキスト】

未定

【参考文献】

佐藤正勝『租税法』同文館出版、鈴木基史『やさしい法人税』税務経理協会、井上徹二『租税法と税制』創成社

税務会計

担当教員 大城 建夫

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考 会計コース

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義では、税務会計の基礎的、全般的内容を修得させることを目標とする。特に、法人税法の課税所得計算と企業会計（財務会計）の利益計算との関わりを中心にわかりやすく講義する。

【授業の展開計画】

1. 税務会計の意義と役割
2. 課税所得計算の意義
3. 収益と益金、費用と損金
4. 販管費と寄付金
5. 販管費と貸倒損失
6. 棚卸資産と損金（1）
7. 棚卸資産と損金（2）
8. 有価証券と損金
9. 固定資産と損金（1）
10. 固定資産と損金（2）
11. 固定資産と損金（3）
12. 繰延資産と損金
13. 貸倒引当金と損金（1）
14. 貸倒引当金と損金（2）
15. 税額計算と納税申告
16. 期末テスト

【履修上の注意事項】

税務会計の講義では、法人税法と会計理論の比較検討を行う。そのため、税務会計を受講するには、商業簿記Ⅰ、Ⅱ、会計学Ⅰ、Ⅱ、税法を履修していることが望ましい。簿記検定の取得なども積極的に行ってほしい。

【評価方法】

成績評価の方法は、出席状況、中間テスト、期末試験などの内容を総合して判断する。

【テキスト】

未定

【参考文献】

大城建夫『税務会計の理論的展開』同文館出版、鈴木基史『やさしい法人税』税務経理協会、成道秀雄編著『税務会計論』中央経済社

卒業論文演習 I

担当教員 原田 優也

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

①卒業論文・卒業プロジェクトレポートの作成に向けて、書き方・情報収集・仮説設定の考え方・論文の構成などを学習すること。

②マーケティング的な考え方を実践的に養い、沖縄から全国、世界のビジネス界で活躍できる人材を育てます。

【授業の展開計画】

履修生は(1) 卒業プロジェクトと(2) 卒業論文のどちらか一つ選択し、一年間かけて取り組みます。
(注意：研究テーマが決定したら、個人か少人数のグループ・プロジェクトですすめるかを決定してもらう。)

1) 卒業論文：興味があるテーマについて文献調査し、テーマを絞り込んでから対象とする問題点などについて客観的に分析し、卒業論文を執筆する。

2) 卒業プロジェクト：「実用可能性の高い新商品開発」についてアイデアを出し、マーケティング・プランを作成する。新商品の開発段階・背景・生産工程、競合他社のリサーチ、新商品に対する消費者の購買行動について調査・分析を行う作業を通して、マーケットに必要な知識や技能を習得します。

- (1) 卒業論文・卒業プロジェクトとは何か / ゼミ運営の方針説明
- (2) 研究計画書・レジュメの作成方法・著作権・発表方法・参考文献・引用方法の確認
- (3) 論文テーマの選定 (先行研究、分析方法、仮説設定など)
- (4) 卒論テーマ・プロジェクトテーマの確定/年間計画書の提出
- (5) 先行研究の整理 (1)
- (6) 先行研究の整理 (2)
- (7) 先行研究の整理 (3)
- (8) 仮説設定と分析方法 (1)
- (9) 仮説設定と分析方法 (2)
- (10) 卒業論文・卒業プロジェクト執筆：個別指導①
- (11) 卒業論文・卒業プロジェクト執筆：個別指導②
- (12) 卒業論文・卒業プロジェクト執筆：個別指導③
- (13) 卒論・卒プロジェクト内容の発表及び討論 (1)
- (14) 卒論・卒プロジェクト内容の発表及び討論 (2)
- (15) 卒論・卒プロジェクト内容の発表及び討論 (3)
- (16) 卒業論文・卒業プロジェクトの中間レポートの提出

【履修上の注意事項】

- ①個人とグループ発表の時、自分の意見とディスカッションを行うことが大前提です。
- ②ゼミ生は必ず7月中旬の発表会に参加しなければなりません。
- ③授業に参加し、積極的に学ぶ姿勢 (パティシペーションなど) が必要である。

【評価方法】

発表内容 (50%) ・出席および受講態度 (50%) などで総合的に評価する。

【テキスト】

講義の中で、適切なテキストを指示する。

【参考文献】

必要に応じて講義中に紹介します。

卒業論文演習 I

担当教員 清村 英之

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この演習では、「使える会計知識」「役に立つ会計技法」を身につけることを目指して、会計が現代の経済社会の中でどういう役割を果たしているのか、また、会計の知識を得ることで何ができるのかを学びます。この一年間は、各自が選択した企業の分析を進め、卒業論文をまとめます。

【授業の展開計画】

各自、分析対象企業を選択し、①それぞれの企業の社史、事業内容、経営方針などを調べ、分析対象企業に関する理解を深めます。②インターネット等を利用して入手した会計情報を、様々な手法を用いて分析し、その結果を発表します。③この一年間の研究成果を卒業論文としてまとめるとともに、セミナーハウスで発表会を行います。

【履修上の注意事項】

「専門演習Ⅱ」を履修済みの学生しか登録できません。

【評価方法】

出席や発表などで、総合的に評価します。

【テキスト】

使用しません。

【参考文献】

必要に応じ、講義中に紹介します。

卒業論文演習 I

担当教員 天野 敦央

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習は4年次前期科目 2.00単位、4年次後期科目2.00単位、合計4.00単位からなっている。経営学の概念を正確に理解するために、毎回テーマを決めて討論する。このほかに、各自がそれぞれ好きなテーマ（経営学の諸分野の中から）と好きな地域を決めて、その地域の経営の実状についてくわしく調べる。なお本演習イベント（合宿・学園祭・コンパ）への、ゼミ生諸君の積極的な関与を期待する。

【授業の展開計画】

- | 回 | 内容 |
|----|------------|
| 1 | 昨年度の到達点の総括 |
| 2 | 研究対象（1） |
| 3 | 研究対象（2） |
| 4 | アメリカ経営学 |
| 5 | アメリカ経営学（2） |
| 6 | ドイツ経営学（1） |
| 7 | ドイツ経営学（2） |
| 8 | 企業論（1） |
| 9 | 企業論（2） |
| 10 | 経営管理（1） |
| 11 | 経営管理（2） |
| 12 | 意思決定（1） |
| 13 | 意思決定（2） |
| 14 | 経営戦略（1） |
| 15 | 経営戦略（2） |

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

卒業論文演習 I

担当教員 宮森 正樹

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

マーケティング及び広告全般から沖縄社会を総合的に考察する為の応用力を身につける。専門書の読み方、マーケティング的文章の書き方、人前に出たプレゼンテーションの仕方、情報収集の方法など、卒業論文2につながるものを学ぶ。また、各自がテキストを深く読み込んで理論を整理し、論文の理論的援用の方法を学ぶ。本ゼミでは基本的に実践的活動を目指しているため、論文の情報収集として、一人ひとりが実社会に飛び出して多くの人と会い、理論と実践の統合を目指す。前期は他大学の学生や院生が書いた論文を読み込み、その分析と批評を行う。

【授業の展開計画】

- 1・2週目 演習の進め方オリエンテーション
- 3・4週目 論文分析(1)
- 5・6週目 論文分析(2)
- 7・8週目 論文分析(3)
- 9・10週目 論文分析(4)
- 11・12週目 論文分析(5)
- 13・14週目 論文分析(6)

【履修上の注意事項】

- (1) 出席を重視する。
- (2) 事前にテキストを読んてくること。
- (3) 提出物を〆切を過ぎて出した者は減点、あるいは点数無し。
- (4) 授業中のおしゃべりは、他の学生の迷惑となるので教室より退出してもらおう。
- (5) マーケティング入門を履修した者のみ受け付ける。

【評価方法】

出席 (15%) , 発表 (10%) , レポート (10%) , 論文 (60%) , 質問回数 (5%) 等で総合的に評価する。

【テキスト】

プリントを配布する

【参考文献】

- ①現代マーケティングの構図：嵯峨野書院
- ②コトラーのマーケティング思考法：東洋経済

卒業論文演習 I

担当教員 鶴池 幸雄

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

企業会計に係わりこれまで学習してきた内容を深めるとともに、一つのテーマについてこれをまとめる。

【授業の展開計画】

1. 卒業論文の作成
テーマの決定
文献調査
論文構成の決定
執筆
を、講義内で指導していく
2. 会計のトピックについて
研究・発表を行う。

【履修上の注意事項】

【評価方法】

課題の提出、講義内での発表などにより評価します。

【テキスト】

講義内で指示します

【参考文献】

卒業論文演習 I

担当教員 佐久本 朝一

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

卒業論文演習 I

担当教員 岩橋 建治

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

卒業論文執筆のための指導を行う。研究を通じて、自分自身が何を望んでいるのか（自己分析）、その研究を深めることで誰にどのような貢献ができるのか（社会における役割）を、納得のいくまで考えて欲しい。

【授業の展開計画】

卒業論文の研究に関しては、授業時間中だけでは指導が不十分なため、授業時間以外も適宜連絡の上で、毎週課外の指導をおこなうことを前提とする。
それぞれの研究の進捗状況に応じて、適宜指示を与える。

【履修上の注意事項】

卒業論文の分量は16,000字～20,000字程度を目安とする。

【評価方法】

卒業論文に関する課題の提出状況と、その完成度を中心に評価する。

【テキスト】

なし。

【参考文献】

適宜紹介する。

卒業論文演習 I

担当教員 河田 賢一

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

卒業論文を執筆するための下準備として、ゼミ生が興味を持っている分野の専門書を輪読する。それを通じて卒業論文テーマを決定する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	報告・討論
3	報告・討論
4	報告・討論
5	報告・討論
6	報告・討論
7	報告・討論
8	報告・討論
9	報告・討論
10	報告・討論
11	報告・討論
12	報告・討論
13	報告・討論
14	報告・討論
15	報告・討論
16	演習のまとめ

【履修上の注意事項】

就職活動等で欠席する場合には、レポートの提出を求めます。
卒業論文執筆時に企業の決算情報を分析する必要があるため、『財務会計 I』を必ず履修すること。

【評価方法】

出席点・受講態度（45%）、報告（45%）、ゼミ行事への参加（10%）

【テキスト】

【参考文献】

卒業論文演習Ⅱ

担当教員 佐久本 朝一

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

卒業論文演習Ⅱ

担当教員 天野 敦央

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

卒業論文演習Ⅱ

担当教員 岩橋 建治

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

卒業論文執筆のための指導を行う。研究を通じて、自分自身が何を望んでいるのか（自己分析）、その研究を深めることで誰にどのような貢献ができるのか（社会における役割）を、納得のいくまで考えて欲しい。

【授業の展開計画】

卒業論文の研究に関しては、授業時間中だけでは指導が不十分なため、授業時間以外も適宜連絡の上で、毎週課外の指導をおこなうことを前提とする。

それぞれの研究の進捗状況に応じて、適宜指示を与える。

【履修上の注意事項】

卒業論文の分量は16,000字～20,000字程度を目安とする。

【評価方法】

卒業論文の完成度を中心に評価する。

【テキスト】

なし。

【参考文献】

適宜紹介する。

卒業論文演習Ⅱ

担当教員 河田 賢一

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

卒業論文提出に向けて、卒業論文指導をおこなう。毎回、8名前後の学生に卒論の途中経過を報告してもらい、討論していく。最終的に卒業論文を提出することが目的である。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	卒論の書き方
2	報告・討論
3	報告・討論
4	報告・討論
5	報告・討論
6	報告・討論
7	報告・討論
8	報告・討論
9	報告・討論
10	報告・討論
11	報告・討論
12	報告・討論
13	報告・討論
14	報告・討論
15	報告・討論
16	演習のまとめ

【履修上の注意事項】

12月中旬に一度、卒業論文を提出してもらい、15回目に最終提出となります。

本演習（卒業論文演習Ⅱ）は、サブ演習を含めて毎週2校時連続（90分×2）で実施します。サブ演習は本演習の直後の校時に実施します（90分×2を超えて演習を実施する場合があります）。

A4用紙30ページ以上の卒論であると共に、一定以上の質がないと単位取得できません。

【評価方法】

出席点・受講態度（30%）、報告（30%）、卒論内容（40%）

【テキスト】

【参考文献】

卒業論文演習Ⅱ

担当教員 原田 優也

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- ①卒業論文・卒業プロジェクトレポートの作成に向けて、書き方・情報収集・仮説設定の考え方・論文の構成などを学習すること。
- ②マーケティング的な考え方を実践的に養い、沖縄から全国、世界のビジネス界で活躍できる人材を育てます。

【授業の展開計画】

- (1) 後期日程のガイダンス
- (2) 卒業論文・卒業プロジェクトの研究手法・先行研究・仮説設定などの再検討①
- (3) 卒業論文・卒業プロジェクトの研究手法・先行研究・仮説設定などの再検討②
- (4) 卒業論文・卒業プロジェクトの研究手法・先行研究・仮説設定などの再検討③
- (5) 卒業論文・卒業プロジェクト執筆：個別指導①
- (6) 卒業論文・卒業プロジェクト執筆：個別指導②
- (7) 卒業論文・卒業プロジェクト執筆：個別指導③
- (8) 卒業論文・卒業プロジェクト執筆：個別指導④
- (9) 卒業論文・卒業プロジェクト執筆：個別指導⑤
- (10) 卒業論文・卒業プロジェクト執筆：個別指導⑥
- (11) 卒業論文・卒業プロジェクト執筆：個別指導⑦
- (12) 卒業論文・卒業プロジェクト執筆：個別指導⑧
- (13) 卒論・卒プロジェクトの原稿の校正①
- (14) 卒論・卒プロジェクトの原稿の校正②
- (15) 卒論・卒プロジェクトの原稿の印刷
- (16) 卒業論文・卒業プロジェクトの提出

注意：履修生は：(1)卒業プロジェクト と (2)卒業論文のどちらか一つ選択し、一年間かけて取り組みます。
(注意：研究テーマが決定したら、個人か少人数のグループ・プロジェクトですすめるかを決定してもらう。)

【履修上の注意事項】

- ①個人とグループ発表の時、自分の意見とディスカッションを行うことが大前提です。
- ②授業に参加し、積極的に学ぶ姿勢（パティシペーションなど）が必要である。

【評価方法】

発表内容（50％）・出席および受講態度（50％）などで総合的に評価する

【テキスト】

講義の中で、適切なテキストを指示する。

【参考文献】

必要に応じて講義中に紹介します。

卒業論文演習Ⅱ

担当教員 清村 英之

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

卒業論文演習Ⅰに同じ。

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

卒業論文演習Ⅱ

担当教員 鶴池 幸雄

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

企業会計に係わり、これまで学習してきた内容を深めるとともに、一つのテーマについてこれをまとめる

【授業の展開計画】

1. 卒業論文の作成
文献調査
論文構成の決定
執筆

後半の講義内で、卒論の報告を行う

2. 会計のトピックについて

最新の会計基準動向などについて
研究・報告を行う

【履修上の注意事項】

【評価方法】

課題の提出、講義内での発表などによります。

【テキスト】

講義内で指示します。

【参考文献】

卒業論文演習Ⅱ

担当教員 宮森 正樹

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

マーケティング及び広告全般から沖縄社会を総合的に考察する為の応用力を身につける。専門書の読み方，マーケティング的文章の書き方，人前に出たプレゼンテーションの仕方，情報収集の方法など，卒業論文作成につながるものを学ぶ。また，各自がテキストを深く読み込んで理論を整理し，論文の理論的援用の方法を学ぶ。本ゼミでは基本的に実践的活動を目指しているため，論文の情報収集として，一人ひとりが実社会に飛び出して多くの人と会い，理論と実践の統合を目指す。卒業論文作成に集中する。

【授業の展開計画】

- 1・2週目 論文執筆指導(1)
- 3・4週目 論文執筆指導(2)
- 5・6週目 論文執筆指導(3)
- 7・8週目 論文執筆指導(4)
- 9・10週目 論文執筆指導(5)
- 11・12週目 論文執筆指導(6)
- 13・14週目 論文発表

【履修上の注意事項】

- (1) 出席を重視する。
- (2) 事前にテキストを読んてくること。
- (3) 提出物を〆切を過ぎて出した者は減点，あるいは点数無し。
- (4) 授業中のおしゃべりは，他の学生の迷惑となるので教室より退出してもらおう。
- (5) マーケティング入門を履修した者のみ受け付ける。

【評価方法】

出席（15％），発表（10％），レポート（10％），論文（60％），質問回数（5％）等で総合的に評価する。

【テキスト】

プリントを配布する

【参考文献】

- ①現代マーケティングの構図：嵯峨野書院
- ②コトラーのマーケティング思考法：東洋経済

ソーシャル・マーケティング

担当教員 宮森 正樹

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

中小企業経営論

担当教員 木村 眞実

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本授業では、中小企業の発展の軌跡、日本における中小企業政策について学び、さらに、モノづくりを行う中小製造業について学習をします。また、皆さんの身近な中小企業を事例として紹介すること、中小企業診断士の受験問題に即した内容をミニテストとして実施することを予定しています。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	中小企業の定義
3	中小企業の強みと弱み
4	企業数、従業員数
5	中小企業の業種別構造
6	中小企業の財務状況
7	開廃業率
8	企業倒産状況
9	最近の中小企業の動向
10	国内事業を活かし、海外需要を取り込む中小企業
11	社会環境の変化に対応する女性の事業活動
12	中小製造業の現状
13	経営課題への対応
14	中小企業基本法
15	まとめ
16	試験

【履修上の注意事項】

受講生の理解度を見ながら、講義の内容を立てていきますので、多少、授業計画から変更する可能性があることをご了承ください。

【評価方法】

定期試験70%、平常点（小テスト・宿題等）30%

【テキスト】

ありません。パワーポイント、配付プリント等で授業を行います。

【参考文献】

中小企業診断 I

担当教員 嘉陽 宗一郎

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

中小企業診断Ⅱ

担当教員 一銘 苺 康弘

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

データベース

担当教員 佐久本 邦華

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本授業では、データベースの初歩からフォーム・クエリの活用など、もっとも利用されるデータベースの基本操作を中心に学習・習得し、最終的には簡単なデータベースの構築が出来ることを目的とする。複数のデータファイル間に共通の項目を相互に関係付け、一度の処理で多くのデータを同時に操作できる機能をもつリレーショナル型データベースソフト、Accessを使用し授業を行う。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Accessの概要/Accessの基本操作/テーブルとは/データの検索
2	Accessの概要2/インポートを用いた演習/テーブルにレコードを追加する
3	テーブルにフィールドを追加する/画像データを入力する/フォームを活用する
4	テーブルの操作/選択クエリを使う/テーブルの集計を行う/毎回異なる値で選択する方法を使う
5	さまざまなクエリ/クエリ作成演習1
6	AccessとSQL/クエリ作成演習2
7	データベースの設計/リレーションシップの作成と確認/ルックアップ列によるリレーションシップ
8	リレーションシップされたクエリの計算/クエリの高度な活用
9	クエリの高度な活用を用いた演習
10	レポートの作成と印刷/レポート上での計算/グラフをレポート上に作成する
11	レポート作成と印刷の演習
12	総合演習/基本テーブルを作る/フォームの設計/フォーム上での計算/フォーム上のグラフ作成
13	マクロの作成と利用
14	総合演習1 簡単なデータベースの構築
15	総合演習2 簡単なデータベースの構築
16	試験

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席および最終試験で採点し、評価を行います。

【テキスト】

タイトル：30時間でマスター Access 2007

著者：実教出版編修部

発行：実教出版株式会社

【参考文献】

販売管理論

担当教員 河田 賢一

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義は基本的に販売士3級の資格取得を目指す学生向けの講義です。本学卒業生の2人に1人は販売に関連する仕事（製造業、卸売業、小売業、サービス業）に就いています。そこで本講義は本年7月および来年2月におこなわれる販売士3級の資格試験に向けた受験対策として、同資格のテキストを利用して講義をおこないます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	小売業の種類①
3	小売業の種類②
4	小売業の種類③
5	小売業の種類④
6	マーチャンダイジング①
7	マーチャンダイジング②
8	マーチャンダイジング③
9	ストアオペレーション①
10	ストアオペレーション②
11	マーケティング①
12	マーケティング②
13	販売・経営管理①
14	販売・経営管理②
15	講義のまとめ
16	期末試験

【履修上の注意事項】

販売士資格取得を目指す学生の迷惑となるため私語は慎んでください。

講義開始時刻とともに出席カードを配布します。その時点で教室にいない場合は欠席となります。

講義時間中に限らず、開始前・終了後に教室の机に座った場合には減点となります。トイレに友人と一緒にいく必要はありません。長時間教室に戻ってこない場合には欠席扱いとなります。講義時間中にタバコを吸いに行つた場合には、即座に単位『不可』となります。

【評価方法】

期末試験（70%）、出席点・受講態度（30%）

【テキスト】

上岡史郎（2013）『1回で合格！ 販売士検定3級テキスト&問題集』成美堂出版

【参考文献】

非営利会計

担当教員 -上原 香代子

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

非営利会計の対象は、国、地方公共団体、公益法人、学校法人、社会福祉法人、宗教法人等であり、それぞれに会計基準が存在します。近年の非営利会計制度の改正は、アカウンタビリティを重視する企業会計制度と多くの共通部分を有するようになりました。

本講座では、企業会計の基礎を習得した学生が、各非営利法人の意義や特徴及びその会計制度について学習することを目的としています。

【授業の展開計画】

講義の前半は、各非営利法人の会計制度の特徴及び税制について学習します。

後半の講義は、公益法人会計について、日常的な取引の仕訳から決算までの流れを解説し、具体的な練習問題で財務諸表の作成手順を学習します。

週	授 業 の 内 容
1	企業会計と非営利会計との相違点
2	非営利法人に関する制度改革の概要
3	各非営利法人の会計制度の特徴 1 NPO法人、公益法人等
4	各非営利法人の会計制度の特徴 2 学校法人、宗教法人
5	各非営利法人の会計制度の特徴 3 医療法人、社会福祉法人
6	非営利法人の法人税等 1 概要
7	非営利法人の法人税等 2 収益事業の意義と範囲等
8	非営利法人の法人税等 3 みなし寄付金制度、消費税等
9	公益法人会計 会計制度改正の概要
10	公益法人会計 日常取引の仕訳 1
11	公益法人会計 日常取引の仕訳 2
12	公益法人会計 日常取引の仕訳 3
13	公益法人会計 決算 1
14	公益法人会計 決算 2
15	公益法人会計 まとめ
16	提出レポート作成

【履修上の注意事項】

商業簿記Ⅰ及びⅡを履修済みであることが望ましい。

【評価方法】

出席及び授業姿勢、レポート等で総合的に評価します。

【テキスト】

講義の都度、レジュメを配賦します。

【参考文献】

財団法人大蔵税務協会『非営利法人の税務と会計』中田ちざ子編著
日本法令『非営利組織の税務・会計・運営』下吹越一孝編著

比較経営論 I

担当教員 佐久本 朝一

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

比較経営論Ⅱ

担当教員 佐久本 朝一

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

ビジネス実務総論

担当教員 岩橋 建治

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

ビジネス実務の全体像を把握するとともに、その能力を高める。前期では、実務のさまざまな場面において求められている考え方やノウハウを学びながら、ビジネス実務の全体像をつかむ。後期では、企業の採用試験などで使用されている問題の演習をつうじて、実務において必要不可欠とされている思考力、判断力などの基礎能力を高める。

【授業の展開計画】

<前期>

1. ビジネス実務とは何か
2. 目標を立てる
3. 個人業務でのPDSサイクル
4. 業務推進とコミュニケーション
5. グループ・ダイナミクス
6. 協働業務でのPDSサイクル
7. 組織とリーダーシップ
8. 集団的意思決定
- 9～10. ビジネス文書の作成
- 11～12. 対人実務
- 13～14. 雇用動向とさまざまな業種・職種の特徴
15. まとめ

<後期>

- 1～8. 計算・方程式
- 9～10. 確率・集合
- 11～12. グラフ・図表
- 13～14. 判断推理
15. まとめ

【履修上の注意事項】

通年科目のため、前期の評価点数が一定未満の場合、結果的にそこで足切りとなります。また前期で足切りされたとしても、後期で同じ曜日時限に別の科目を履修することはできませんので注意してください。

【評価方法】

出席日数を重視したうえで、前期に実施する課題・試験が50%、後期に実施する課題・試験が50%

【テキスト】

なし。

【参考文献】

適宜紹介する。

ビジネスプレゼンテーション

担当教員 佐渡山 美智子

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

フレッシュマン・セミナー

担当教員 李ヒョンジョン、天野敦央、岩橋建治、鵜池幸雄、河田賢一、木村眞美、慶田花英太
(7クラス)

対象学年 1年

開講時期 前期

単位区分 必

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

大学での学習の始まりとして、また、産業情報学部・企業システム学科の学生としての基礎的な学習能力、コミュニケーション能力を涵養することを目的とします。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	新聞記事（経済記事）の読み方、捉え方
3	レポート・小論文の書き方Ⅰ
4	レポート・小論文の書き方Ⅱ
5	図書館によるガイダンス
6	キャリア支援課による就職ガイダンス
7	学生相談室によるガイダンス
8	プレゼンテーションの方法と実践Ⅰ
9	プレゼンテーションの方法と実践Ⅱ
10	ディスカッションの方法と実践Ⅰ
11	ディスカッションの方法と実践Ⅱ
12	沖縄県内産業の実態とその動向Ⅰ
13	沖縄県内産業の実態とその動向Ⅱ
14	ビジネス分野（経営・マーケティング・会計）の基礎知識Ⅰ
15	ビジネス分野（経営・マーケティング・会計）の基礎知識Ⅱ
16	期末試験・レポートの提出

【履修上の注意事項】

- (1) 出席を重視し、積極的に学ぶ姿勢が必要である。
- (2) 事前にテキスト・資料・ビジネスニュース・新聞記事などを読む。
- (3) 授業中に携帯電話、飲食、私語、迷惑行為等は絶対禁止とし、守らない場合は単位は認めない。
- (4) 出席回数が全授業回数の2/3に満たない場合は単位を与えない。

【評価方法】

授業への参加態度、課題提出、期末試験等によって総合評価する。

【テキスト】

随時、プリント資料等を配布する。

【参考文献】

必要に応じて講義中に紹介する。

プログラミング演習 A

担当教員 佐久本 朝一 - 佐久本 邦華

対象学年 2年

開講時期 前期

単位区分 選択

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

データの集計やグラフ化など、表計算ソフトの基本的な操作に加え、関数を使用した入力サポート、データベース機能、ピボットテーブルとピボットグラフなどを使い、データの分析とビジュアル化の応用を習得することを目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	表計算ソフトの基本と概要
2	表の作成と編集
3	四則演算と関数
4	グラフ
5	データベース
6	基礎総合演習 1
7	基礎総合演習 2
8	入力作業をサポートする機能
9	関数を使用した入力サポート
10	データのビジュアル化
11	データの分析の準備とデータベース機能
12	ピボットテーブルとピボットグラフ
13	総合問題 1
14	総合問題 2
15	総合問題 3
16	試験

【履修上の注意事項】

私語は厳しく対処します。

【評価方法】

評価は、出席点＋課題点＋最終試験 で行います。
数回、授業の最後に課題を印刷物で提出してもらいます。それが課題点となります。
5回以上欠席は規則により不可になります。気を付けてください。

【テキスト】

『Microsoft Excel 2010 セミナーテキスト問題集』 日経BP社

【参考文献】

プログラミング演習 B

担当教員 一佐久本 邦華

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本授業では、情報処理システム開発の最先端である、Android携帯端末のソフト開発を通してシステム開発を具体的に学んでいくことを狙いとしています。授業では MIT App Inventorを使ったアプリ制作を行います。プログラミングの基本である順次（逐次）、反復（繰り返し）、分岐（条件判断）などをブロックプログラミングで学びます。デザイン画面によるインターフェイスの設計からプログラミング設計、アプリ起動までの工程を通すことによって、システム開発の全体像をとらえることを目的とします。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Android開発環境について
2	APP Inventor開発環境について
3	ボタンアプリクリック時の動作と、文字の可視の「真偽値」（真=true、または偽=false）
4	クイズアプリ制作—LISTPICKER, IFELSE（条件分岐）, NOTIFIER（アラート）の出し方
5	オリジナルクイズアプリ制作
6	らくがきあぶり—defaultSize, currentSize, を使った初期化
7	らくがきアプリ—Canvasをタッチした時のイベントTouched, Dragged, Clear
8	らくがきあぶり—カメラアプリ起動
9	もぐらたたき—ImageSprite, Clock, Sound, 独自の関数の定義, ifを使ったタイマー
10	オリジナル画像の作成、音声等の素材のアップロードと使用方法
11	オリジナルもぐらたたきアプリ制作 I
12	オリジナルもぐらたたきアプリ制作 II
13	おみくじあぶり—make a list, call pick random item list, if test~, tend do・・・
14	オリジナルおみくじアプリ制作 I
15	オリジナルおみくじアプリ制作 II
16	まとめ

【履修上の注意事項】

APP InventorによるAndroid用のシステム開発です。

【評価方法】

出席、授業態度、開発したシステムの提出。

【テキスト】

APP InventorによるAndroidアプリケーション開発環境のバージョン・アップデートが激しいため、教科書を用いずにプリント（各自、電子掲示板よりダウンロード）で行います。また、それに伴い、講義内容に変更のある場合があります。

【参考文献】

Android関連書籍。関連Webページ。

ベンチャー経営論 I

担当教員 大城 朝子

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本授業は、主としてベンチャー経営に関心がある学生を対象に、ベンチャー企業経営に関する基礎的な理論を体得することを目的とします。

ベンチャー企業のマネジメントに関する基礎的な理論を検討し、ベンチャー経営の要諦について議論を行います。さらに、資金調達や各種支援施策等ベンチャー企業を取り巻く環境についても理解を深めます。その他、ケーススタディを適宜取り入れ、刺激的な授業を目指します。

【授業の展開計画】

1. オリエンテーション及びベンチャー企業とは（定義・沿革）
2. ベンチャー企業のマネジメント①
3. ベンチャー企業のマネジメント②
4. ベンチャー企業のマネジメント③
5. 世界のベンチャー企業
6. 日本のベンチャー企業
7. 起業家とは
8. 中間まとめ
9. 起業のプロセスと成長戦略
10. ベンチャー・ファイナンス
11. 会社設立と起業
12. ケーススタディ①
13. ケーススタディ②
14. ケーススタディ③
15. まとめ
16. 期末試験

※受講生のレベルや興味に合わせて、講義内容を若干変更することもある。

【履修上の注意事項】

講義中の私語は厳禁とする。遅刻は2回で1回分の欠席とみなす。

【評価方法】

定期試験と出席状況（出席カードへの記入内容）、そして映像資料の感想文や小テストを加味して判定する。定期試験(40%)、小テスト(30%)、出席状況及び感想等(30%)で評価する。

【テキスト】

特定の教科書は使用しない。

【参考文献】

書籍名：『ベンチャー企業』 著者：松田修一著 出版社：日本経済新聞社

簿記演習 I

担当教員 木村 眞実

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本授業では、商業簿記 I で学習した内容を復習し、日商簿記検定試験3級合格を目指します。

【授業の展開計画】

間違えやすい仕訳、試算表の出題パターン、精算表の作成方法について復習をし、検定試験レベルの問題に取り組みます。

週	授 業 の 内 容
1	現金・当座預金・小口現金の復習
2	手形の復習・その他期中取引の復習
3	試算表の作成 (I)
4	試算表の作成 (II)
5	決算の手続き (I)～(III)
6	決算の手続き (IV)～(VI)
7	伝票式会計
8	確認テスト
9	演習問題 第1回
10	演習問題 第1回の解説
11	演習問題 第2回
12	演習問題 第2回の解説
13	演習問題 第3回
14	演習問題 第3回の解説
15	自主学習の方法について～答練問題の配付等
16	試験

【履修上の注意事項】

講義計画：受講生の理解度を見ながら、講義の内容を立てていきますので、多少、授業計画から変更する可能性があることをご了承ください。持ち物：テキスト・トレーニング（無いと授業が楽しくありません）※本授業の履修を決めた方は、第1回の授業に間に合うように、テキスト・トレーニングを早く入手して下さい。その他：合格のためには、授業の他に、自主学習が必要です。希望者には、自主学習のための答練問題を配付しますので、一緒に合格を目指しましょう！

【評価方法】

定期試験70%、平常点（小テスト・宿題等）30%

【テキスト】

- ・TAC簿記検定講座『合格テキスト 日商簿記3級 ※最新版』TAC出版
- ・TAC簿記検定講座『合格トレーニング 日商簿記3級 ※最新版』TAC出版

【参考文献】

- ・TAC簿記検定講座『これだけ仕訳マスター 日商簿記3級 第3版』TAC出版
- ・TAC簿記検定講座『日商簿記3級 網羅型完全予想問題集』TAC出版

簿記演習Ⅱ

担当教員 鶴池 幸雄

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

商業簿記Ⅱ、工業簿記、原価計算の講義で学修した簿記の知識をより実践的な形での理解を目指します。具体的には、日本商工会議所簿記検定試験2級と同等の理解と実践力を身につけることを目標とします。また、本講義にて身につけた応用力等により、検定受検を推奨します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス等
2	伝票会計
3	帳簿組織Ⅰ
4	帳簿組織Ⅱ
5	本支店会計と財務諸表
6	工業簿記の基礎
7	個別原価計算の応用Ⅰ
8	個別原価計算の応用Ⅱ
9	総合原価計算の応用
10	標準原価計算の応用
11	直接原価計算とC・V・P分析
12	総合テストⅠ
13	総合テストⅡ
14	総合テストⅢ
15	総合テストⅣ
16	期末試験

【履修上の注意事項】

商業簿記Ⅰ、Ⅱ、工業簿記Ⅰは履修済みであること。
会計学Ⅰ、Ⅱも受講していることが望ましい。

【評価方法】

講義への出席、小テストを最低条件とし、総合テストの成績によって評価します。

【テキスト】

講義開始時に指示する

【参考文献】

マーケティング演習

担当教員 小原 満春

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

本講義では、マーケティングの基礎的な諸理論を踏まえた上で、企業におけるマーケティング戦略の事例を通して効果的なマーケティング戦略の考察を行う学習をします。プロジェクトにおいて、学生自身で企業におけるマーケティング戦略の分析を行い、その問題点を指摘し、効果的なマーケティング戦略について提案するプロジェクトの発表を行ってまいります。マーケティングの基礎を踏まえた上で、自ら提案したマーケティング戦略のプロジェクト発表を通して、マーケティングの諸活動についてより深く具体的に理解することを目的とします。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	ケーススタディ・・・1
3	ケーススタディ・・・2
4	ケーススタディ・・・3
5	プロジェクトの発表・討論・・・1
6	プロジェクトの発表・討論・・・2
7	プロジェクトの発表・討論・・・3
8	プロジェクトの発表・討論・・・4
9	プロジェクトの発表・討論・・・5
10	プロジェクトの発表・討論・・・6
11	プロジェクトの発表・討論・・・7
12	プロジェクトの発表・討論・・・8
13	プロジェクトの発表・討論・・・9
14	プロジェクトの発表・討論・・・10
15	プロジェクトの発表・討論・・・11
16	まとめとレポート提出

【履修上の注意事項】

(1) 本講義は後期のマーケティング総論と連続したプログラムを組んでいます。理論を学び演習で実習プロジェクトを行うので前期の「マーケティング総論」とセットで登録する事が望ましい。

(2) 授業に出席を重視します。積極的に学ぶ姿勢が必要です。進んで発言し議論に参加すること。

(3) 授業中の携帯電話、私語、飲食など他の学生に迷惑になる行為は厳に慎むこと。場合によっては退出させます。

【評価方法】

発表・レポート50% 出席・議論への参加・発言50% 他 総合的に判断します。

【テキスト】

必要に応じて講義中に紹介します。

【参考文献】

恩蔵直人監修 (1999) 『コトラーのマーケティング入門 第4版』ピアソンエデュケーション

恩蔵直人監修 (2008) 『コトラー&ケラーのマーケティングマネジメント』ピアソンエデュケーション

石井淳蔵他 (2004) 『ゼミナールマーケティング入門』日本経済新聞出版社

マーケティング演習

担当教員 宮森 正樹

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

マーケティング情報処理 I

担当教員 原田 真知子

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

情報の時代が到来し、マーケティング領域においてもデータを読み判断する能力が問われている。この授業は、膨大なデータから価値ある情報を読み取り、論理的思考に基づく意思決定能力を修得することを最終目標とし、データ分析の理論的基礎と分析技法について分析ソフトを操作しながら実践的に学ぶ。データの扱い方から分析結果の報告までの計量的分析の各段階をI、IIの30回に分けて説明する。Iはデモグラフィックスの手法、調査データの種類の分析準備、データの要約と探索的分析などの項目が理解でき、分析が行えるレベルを目指す。

【授業の展開計画】

はじめに、デモグラフィックスと呼ばれるビジネス人口統計学のなかから3つの分析手法を選び、マーケット分析実習を行う。表計算ソフトと集計データの活用法、テキスト・データの扱い方、事象の測定法などのデータ分析の基本を学ぶ。次に、統計解析ソフト「SPSS」を動かしながらアンケート調査データの種類の加工などの方法を学ぶ。さらに、データ分析の理論的基礎となる記述統計学から推定・検定の考え方までを、ビジュアル教材を用いてわかりやすく説明する。講義はすべてデータ分析実習をとまなう。

- 1 オリエンテーション（概要と授業の受け方）、マーケティング・データ分析の適用例
- 2 Excelで学ぶデモグラフィックス(Demographics) 1： 出店計画にいかす商圏の設定と分析
- 3 デモグラフィックス 2： 製品カテゴリー普及過程の観察
- 4 SPSSによる調査データ分析 1： データの種類と尺度
- 5 調査データ分析 2： データの入力と加工
- 6 調査データ分析 3： データの記述（代表値とばらつき）
- 7 調査データ分析 4： 度数分布表とヒストグラム
- 8 調査データ分析 5： 推定・検定の考え方（1）
- 9 調査データ分析 6： 推定・検定の考え方（2）
- 10 事例紹介： 趣向の差異とブランドのパッケージ、ほか
- 11 調査データ分析 7： クロス集計表と分析
- 12 調査データ分析 8： 相関から回帰へ（1）
- 13 調査データ分析 9： 相関から回帰へ（2）
- 14 事例紹介：顧客満足度分析、製品使用頻度の差異
- 15 まとめと今後の学習指針（マーケティング情報処理IIへの展望）
- 16 レポート提出： データ分析レポートの提出と評価

【履修上の注意事項】

1) 第1回目の授業で関心や学習歴などを調査し受講生を決定するで、〈必ず出席する〉こと。2) 分析ソフトを用いた統計解析という専門性を修得するには、学習の積み重ねが必要である。できるだけ欠席はしないこと。遅刻は厳禁とする。3) Excelで集計表を作成した経験があることが望ましい。高度な数学知識がなくともよい。意欲と関心を持って最後まで取り組める人を歓迎する。

【評価方法】

授業への参加姿勢（30%）、データ分析課題の提出と内容評価（70%）とを勘案し、総合的に評価する。講義回数の3分の1以上を欠席した場合は、不合格とするので注意すること。

【テキスト】

特に指定はない。プリントを配布する。また、実習用データと解答・解説、補足資料を講義用ウェブサイト随時更新していくので、その都度各自でダウンロードし使用する。

【参考文献】

Groebner, D. F. et al. "Business Statistics" Prentice Hall. Malhotra, N. K. "Marketing Research: An Applied Orientation" Prentice Hall. 田淵正則『SPSSで学ぶ調査形データ解析』東京図書。

マーケティング情報処理Ⅱ

担当教員 原田 真知子

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

この授業は、膨大なデータから価値ある情報を読み取り、論理的思考に基づく意思決定能力を修得することを最終目標とし、マーケットや消費者行動の分析法について分析ソフトを操作しながら実践的に学ぶ。調査データの計量的分析から解釈、報告書の作成までのプロセスを集中的に学ぶ。マーケティング情報処理Ⅰの学習で積み上げた統計的知識や分析テクニックを、事例ごとに紹介するより高度なデータ分析へと発展させる。＜知識・パターン・法則性＞に基づく意思決定のダイナミックな面白さを感じてほしい。

【授業の展開計画】

はじめに、統計解析ソフト「SPSS」を動かしながら、仮説検定（標本と母集団、推測と検定）の考え方と分析手順を学ぶ。これは、MJIで学んだSPSSの基本操作や分析のためのデータ加工法の復習を兼ねている。次に、マーケティング計画の際によく用いられる量的データの分析法（多変量解析諸技法）について、ケース・スタディを通して学ぶ。最後に、グループによるリサーチ・プロジェクトの発表会を行い、分析からプレゼンテーションまでの手順を学ぶ。

＊ ＊卒論などのデータ分析にいかせるよう、分析計画と手法の選択、解釈上陥りやすい誤りなどについても説明する。

1 授業の概要と受け方、マーケティング・データ分析の事例紹介（車、化粧品、ドラッグストアなど）

2 データ分析のための基礎知識 1： 仮説検定の考え方と手順（1）

3 データ分析のための基礎知識 2： 仮説検定の考え方と手順（2）、データ解析戦略とは

4 分析事例 1： 分散分析による販売促進効果の測定 ー基本的考え方ー

5 分析事例 1： 分散分析による販売促進効果の測定 ー比較実験と交互作用ー

6 分析事例 2： 重回帰分析による市場性の予測 ー基本的考え方ー

7 分析事例 2： 重回帰分析による市場性の予測 ー売上高変動の説明と予測ー

8 分析事例 3： ロジスティック回帰分析による市場反応の測定 ーブランド選択モデルの紹介ー

9 分析事例 4： クラスタ分析によるベネフィット・セグメンテーション ー基本的考え方ー

10 分析事例 4： クラスタ分析によるベネフィット・セグメンテーション ー消費者のグループ分けー

11 分析事例 5： 因子分析によるブランドの知覚マップ ー基本的考え方ー

12 分析事例 5： 因子分析によるブランドの知覚マップ ー知覚マップ作成ー

13 データ分析のまとめ、報告書とプレゼンテーションの重要性とガイドライン

14 リサーチ・プロジェクトの準備 1

15 リサーチ・プロジェクトの準備 2

16 リサーチ・プロジェクトの発表会（プレゼンテーションと評価）

【履修上の注意事項】

1) 第1回目の授業で関心や学習歴などを調査し受講生を決定するで、＜必ず出席する＞こと。2) 分析ソフトを用いた統計解析という専門性を修得するには、学習の積み重ねが必要である。できるだけ欠席はしないこと。遅刻は厳禁とする。3) Excelで集計表を作成した経験があることが望ましい。高度な数学知識がなくともよい。意欲と関心を持って最後まで取り組める人を歓迎する。

【評価方法】

授業への参加姿勢（30%）、データ分析実習の提出（30%）と発表（40%）とを勘案し、総合的に評価する。講義回数の3分の1以上を欠席した場合は、不合格とするので注意すること。

【テキスト】

特に指定はない。プリントを配布する。また、実習用データと解答・解説、補足資料を講義用ウェブサイト随時更新していくので、その都度各自でダウンロードし使用する。

【参考文献】

Malhotra, Naresh K., "Marketing Research, An Applied Orientation," Prentice Hall. 田淵正則『SPSSで学ぶ調査系データ解析』東京図書. 朝野照彦『入門 多変量解析の実際』講談社

マーケティング総論

担当教員 小原 満春

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

ビジネス活動の基本は、「売りたい商品をより多く売って、利益をたくさん上げる」と言えます。そのため、商品売るにはどうするかを考えなければいけません。昔のように「良い物を作ればそれなりに売れる」時代ではない現在、いろいろな考え方や方法により「売れる仕組みをつくる」ことが非常に重要です。すなわち、企業にとって売れる仕組みづくりが「マーケティング」だと言えます。本講義では、マーケティング研究の基礎的理論を体系的学び、その上でケーススタディを交え、マーケティングの基礎理論と考え方を習得することを目的とします。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	マーケティングとは何か
3	マーケティング戦略
4	マーケティング・プロセス
5	マーケティング・リサーチ
6	顧客関係
7	マーケティングと消費者行動
8	セグメンテーション
9	ターゲティング・ポジショニング
10	ブランド
11	ライフサイクル
12	価格
13	マーケティング・コミュニケーション
14	広告
15	まとめ
16	学期末試験

【履修上の注意事項】

(1) 本講義は後期のマーケティング演習と連続したプログラムを組んでいます。理論を学び演習で実習プロジェクトを行うので後期の「マーケティング演習」とセットで登録する事が望ましい。

(2) 授業に出席を重視します。積極的に学ぶ姿勢が必要になります。

(3) 授業中の携帯電話、私語、飲食など他の学生に迷惑になる行為は厳に慎むこと。場合によっては退出させます。

【評価方法】

学期末試験 60% レポート 30% 出席・受講態度等 10% を踏まえた上で総合的に評価します。

【テキスト】

恩蔵直人監修 (2008) 『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント 基本編』ピアソンエデュケーション

【参考文献】

石井淳蔵他 (2004) 『ゼミナールマーケティング入門』日本経済新聞出版社

恩蔵直人監修 (1999) 『コトラーのマーケティング入門』ピアソンエデュケーション

その他、講義の時に紹介します。

マーケティング総論

担当教員 宮森 正樹

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

マーケティング入門 I

担当教員 宮森 正樹

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

マーケティングコースの入門として専門科目に始めて触れるクラスである。テキストを中心にパワーポイントを用いて分かりやすくそして面白くマーケティングを解説していく。まずはマーケティングのコンセプトにより、これまでのビジネスに対する考え方を大きく変えて欲しい。授業では、沖縄県の企業の事例を用いて説明し、実務家を招聘して、授業で学んだマーケティング理論がどう応用されて実践されているかを知る機会も作る。

【授業の展開計画】

- 1～2週：オリエンテーション、マーケティングの定義
- 3～4週：マーケティングの現代的意義
- 5～6週：マーケティング概念とその拡張
- 7～8週：マーケティング理念
- 9～10週：マーケティングの戦略思考
- 11～12週：マーケティング戦略の策定
- 13～15週：製品ライフサイクル

【履修上の注意事項】

- ・おしゃべり、居眠りは禁止（当たり前）
- ・積極的に授業に参加（質問に答える、質問をする）
- ・事前に予習すること
- ・マーケティングの定義を覚える（暗記）

【評価方法】

- ・期末試験
- ・豆テスト
- ・レポート（ビデオ・社会人講師）
- ・出席および授業への参加度

【テキスト】

授業で指定する

【参考文献】

現代マーケティングの構図

マーケティング入門 I

担当教員 河田 賢一

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

企業が存続していくためには、売り上げを上げることと利益を確保することが求められます。売り上げを上げるためにはお客様を引きつけるような商品やサービスが必要となり、それをお客様に知ってもらわなければなりません。お客様を引きつけるような商品やサービスを考えたり、それをお客様に知ってもらうことがマーケティングです。今やマーケティングは民間企業だけでなく、国・地方公共団体や非営利組織にも必要となっています。そこで当講義ではマーケティングの基本的な知識を学んでいきます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	マーケティングの視点
3	戦略的マーケティング入門（1）①
4	戦略的マーケティング入門（1）②
5	戦略的マーケティング入門（2）
6	消費者行動論入門
7	マーケティング・リサーチ入門
8	マーケティング・マネジメント入門①
9	マーケティング・マネジメント入門②
10	製品戦略入門①
11	製品戦略入門②
12	製品戦略入門③
13	価格戦略入門①
14	価格戦略入門②
15	講義のまとめ
16	期末試験

【履修上の注意事項】

当講義は必修科目のため出席を重視します。必修科目であると共に、2年次からのマーケティングコースにおける全ての科目の基礎となるため、受講態度の悪い学生は教室から退去してもらいます。講義開始と共に出席カードを配布します。その時点で教室にいない場合は欠席となります。講義時間中に限らず、開始前・終了後に教室の机に座った場合は減点となります。長時間教室に戻ってこない場合には欠席扱いとなります。

【評価方法】

期末試験（55%）、出席点・受講態度（45%）

【テキスト】

菊池宏之編（2013）『現代マーケティング入門』同文館出版

【参考文献】

フィリップ・コトラー，ケビン・レーン・ケラー（恩蔵直人 [監修]・月谷真紀 [訳]）（2008）『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント（第12版）』ピアソン・エデュケーション

マーケティング入門Ⅱ

担当教員 宮森 正樹

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

マーケティングコースの入門として専門科目に始めて触れるクラスである。テキストを中心にパワーポイントを用いて分かりやすくそして面白くマーケティングを解説していく。まずはマーケティングのコンセプトにより、これまでのビジネスに対する考え方を大きく変えて欲しい。授業では、沖縄県の企業の事例を用いて説明し、実務家を招聘して、授業で学んだマーケティング理論がどう応用されて実践されているかを知る機会も作る。後期はマーケティング入門Ⅰを受けて、継続してその内容を深めていく。

【授業の展開計画】

- 1～2週：マーケティング環境
- 3～4週：マーケティング環境のインパクトと要素
- 5～6週：消費者行動（モデルの解説）
- 7～8週：消費者行動（具体的事例）
- 9～10週：マーケティング情報
- 11～12週：マーケティング・リサーチ
- 13～15週：データ分析

【履修上の注意事項】

- ・おしゃべり、居眠り禁止
- ・予習
- ・出席重視
- ・授業への積極的参加

【評価方法】

- ・期末試験
- ・豆テスト
- ・レポート（ビデオ、社会人講師）
- ・出席および授業への参加度

【テキスト】

授業で指定する

【参考文献】

現代マーケティングの構図

マーケティング入門Ⅱ

担当教員 河田 賢一

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

企業が存続していくためには、売り上げを上げることと利益を確保することが求められます。売り上げを上げるためにはお客様を引きつけるような商品やサービスが必要となり、それをお客様に知ってもらわなければなりません。お客様を引きつけるような商品やサービスを考えたり、それをお客様に知ってもらうことがマーケティングです。今やマーケティングは民間企業だけでなく、国・地方公共団体や非営利組織にも必要となっています。そこで当講義ではマーケティングの基本的な知識を学んでいきます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	プロモーション戦略入門①
3	プロモーション戦略入門②
4	ネット活用のプロモーション戦略入門①
5	ネット活用のプロモーション戦略入門②
6	チャネル戦略入門①
7	チャネル戦略入門②
8	チャネル戦略入門③
9	物流戦略入門①
10	物流戦略入門②
11	サービス・マーケティング入門①
12	サービス・マーケティング入門②
13	ダイレクト・マーケティング入門①
14	ダイレクト・マーケティング入門②
15	講義のまとめ
16	期末試験

【履修上の注意事項】

当講義は必修科目のため出席を重視します。必修科目であると共に、2年次からのマーケティングコースにおける全ての科目の基礎となるため、受講態度の悪い学生は教室から退去してもらいます。講義開始と共に出席カードを配布します。その時点で教室にいない場合は欠席となります。講義時間中に限らず、開始前・終了後に教室の机に座った場合は減点となります。長時間教室に戻ってこない場合には欠席扱いとなります。

【評価方法】

期末試験（55%）、出席点・受講態度（45%）

【テキスト】

菊池宏之編（2013）『現代マーケティング入門』同文館出版

【参考文献】

フィリップ・コトラー，ケビン・レーン・ケラー（恩蔵直人 [監修]・月谷真紀 [訳]）（2008）『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント（第12版）』ピアソン・エデュケーション

民法

担当教員 福里 芝人

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

流通政策論

担当教員 河田 賢一

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

流通政策は、国や地方公共団体による流通に対する望ましい状態を実現するための公共政策のことである。その流通政策には、市場メカニズムを健全に機能させるための競争政策と、それを補完する形の振興政策と調整政策がある。本講義では、これらについて学んでゆく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	流通政策の目的と小売商業政策
3	競争政策と不公正な取引問題
4	再販売価格維持制度と景品表示法
5	商業振興政策の変遷
6	出店規制の変遷（1）第1次百貨店法①
7	出店規制の変遷（1）第1次百貨店法②
8	出店規制の変遷（2）第2次百貨店法①
9	出店規制の変遷（2）第2次百貨店法②
10	出店規制の変遷（3）大規模小売店舗法①
11	出店規制の変遷（3）大規模小売店舗法②
12	まちづくり三法の制定
13	地域商業とまちづくり三法の改正
14	21世紀の流通政策の課題
15	講義のまとめ
16	期末試験

【履修上の注意事項】

講義開始とともに出席カードを配布します。その時点で教室にいない場合は欠席となります。長時間教室に戻ってこない場合には欠席扱いとなります。

【評価方法】

期末試験（70%）、出席点および受講態度（30%）

【テキスト】

番場博之編（2014）『基礎から学ぶ流通の理論と政策』八千代出版

【参考文献】

加藤義忠・佐々木保幸・真部和義（2006）『小売商業政策の展開〔改訂版〕』同文館出版

流通総論

担当教員 河田 賢一

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

学生の皆さんにとって最も身近である小売業を中心とした流通の基本知識を学んでいきます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	商品と消費者
3	経済的懸隔と流通機能
4	流通の役割と流通システム
5	商業の発生と発展の歴史
6	卸売業の機能と諸形態①
7	卸売業の機能と諸形態②
8	小売業の機能と諸形態①
9	小売業の機能と諸形態②
10	百貨店・専門量販店
11	スーパーマーケット・コンビニエンスストア
12	無店舗小売業
13	零細小売業と商店街
14	チェーンストアシステムの展開
15	講義のまとめ
16	期末試験

【履修上の注意事項】

講義開始とともに出席カードを配布します。その時点で教室にいない場合は欠席となります。

講義時間中に限らず、開始前・終了後に教室の机に座った場合は減点となります。トイレに友人と一緒にに行く必要はありません。長時間教室に戻ってこない場合は欠席扱いとなります。講義時間中にタバコを吸いに行った場合は即座に単位『不可』となります。

【評価方法】

期末試験（70%）、出席点および受講態度（30%）

【テキスト】

番場博之編（2014）『基礎から学ぶ流通の理論と政策』八千代出版

【参考文献】

中田信哉・橋本雅隆編（2006）『基本流通論』実教出版

労働経済学

担当教員 -喜屋武 臣市

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

企業は財とサービスを生産し、利益を得るために、資本市場から資本を調達し、労働市場から労働力を確保する。労働需要が派生需要とよばれるゆえんであり、その動きは雇用の量と質を左右し、人々の仕事と暮らしのありようをも規定する。雇用が二極化する中で、経済大国日本では過去のものであったはずの格差、不平等、貧困が国民の仕事と暮らしに顕在化している。この講義では現代労働の特徴・課題を浮き彫りにしつつ、それらの主な制度的・理論的解釈を試みる。

【授業の展開計画】

- 第1回 現代労働の潮流
- 第2回 “紙上ディベート：職業選択”
- 第3回 人的資本投資としての大学進学
- 第4回 大卒の求人・求職行動
- 第5回 教育投資と労働需給特性
- 第6回 非正規労働の特性
- 第7回 地域間労働移動：沖縄からの県外就労
- 第8回 地域間労働移動：沖縄の米軍基地への就労
- 第9回 “紙上ディベート：転職”
- 第10回 企業間・職業間労働移動：離職・転職と雇用の質
- 第11回 賃金体系と賃金特性
- 第12回 民間労働者と公務員の賃金決定機構
- 第13回 雇用差別
- 第14回 失業：誰が、なぜ失業しているのか
- 第15回 所得格差—貧困を中心に—
- 第16回 総括

【履修上の注意事項】

統計学を履修していることが望ましい。

【評価方法】

講義ごとの所定講義要旨の提出、紙上ディベート参加、宿題、および大学が定める出欠席規定にもとづく。

【テキスト】

特に指定しない。適宜、ハンドアウトを用いる。

【参考文献】

武田圭太『採用と定着』白桃書房、NHKラジオ深夜便：ストーリーミング
日本労働政策研究・研修機構「ユースフル労働統計」<http://www.jil.go.jp/kokunai/statistics/kako/>